

# 2017年度三重短期大学年報

三重短期大学評価委員会

## 目 次

三重短期大学年報刊行にあたって	1
2017年度三重短期大学の概況	2
1. 三重短期大学の理念と目的・教育目標	5
2. 組織	
1) 全学組織	
表1 設置学科・専攻等	7
2) 教員組織	
表2 全学の教員組織	8
表3 専任教員個別表	9
表4 専任教員年齢構成	13
3) 事務組織	
表5 事務組織	14
3. 教育	
1) 教育課程	
表6 学科の開設授業科目における専兼比率	15
表7 学科・専攻別の学生定員及び在籍学生数	17
2) 教育内容と効果	
表8 国家試験・資格試験合格率および卒業免許取得率	18
表9 卒業判定	19
表10 就職・進学状況	20
表11 学科の退学者・休学者数	21
4. 入試	
表12 学科の志願者・合格者・入学者数の推移	22
表13 学科の入学者の構成	24
5. 学生生活	
表14 学生相談室利用状況	25
表15 奨学金給付・貸与状況	26
表16 授業料免除状況	27
6. 研究	
表17 教員研究費	28
表18 科研費の採択状況	29

表19	教員研究室の状況	30
表20	専任教員の担当授業時間数	31
7.	社会活動	
表21	公開講座の開設状況	32
8.	大学運営	
1)	施設・設備	
表22	校地・校舎、講義室・演習室等の面積	33
表23	学科・専攻毎の講義室・演習室等の面積・規模	34
2)	図書館	
表24	図書資料の所蔵数	35
表25	学生閲覧室等の面積・座席数	36
表26	図書館利用状況	37
3)	財務	
表27	歳入・歳出決算表	38
4)	管理運営	
表28	教授会開催状況	39
9.	専任教員の活動実績	41

## 2017年度三重短期大学年報刊行にあたって

三重短期大学評価委員会

本学における全学的な自己点検評価は、7年毎の認証評価とその中間時点にあたる3年ないし4年ごとに実施しており、自己点検評価報告書としてまとめています。2010年度には、大学評価・学位授与機構による認証評価を受審する際に提出し、その結果、適格の判定を与えられました。また、2013年度には中間的な自己点検評価報告書を作成して学内外に公表しました。2017年度には大学基準協会による短期大学認証評価を受審する際に提出し、「評価の結果、貴短期大学は本協会の短期大学基準に適合していると認定する。」との評価結果を受けました。

自己点検評価を実施するにあたっては、その基礎資料として、毎年、専任教員の研究教育業績調査を実施し、さらに自己点検評価実施に必要な定型的なデータを収集しています。また、これらの基礎データについては、2011年度分から「三重短期大学年報」として取りまとめ、本学ホームページ上に公開して、広く三重短期大学の状況について発信しています（原則11月～12月に公開）。

「三重短期大学年報」は、基礎的データの掲載が主内容です。職階別の年齢構成・男女比などの教員データ、受験者数・合格者数などの入試データや、在籍学生数・卒業数・休退学数・進路状況などの学生データ、施設・設備・短大財政などの管理データ、それに専任教員の教育・研究・地域貢献活動の状況などから構成することとし、当該年度の三重短期大学の状況を数値面から把握できるように、大項目ごとに章立てして構成してあります。また、全体的な概要を冒頭に記載してあります。ただし、あくまでも特徴的な変化を把握するもので、個々の評価には踏み込んでおりません。

今後とも、継続的に短大情報を公開していく中で、自己点検評価に必要な外部からの意見・提言を寄せていただけるよう関係各方面をお願いします。

2018年12月

## 2017年度三重短期大学の概況

### 1. 本学の理念・目的・教育目標について

- ・2008年3月に本学の理念と教育目標を制定し、各学科・専攻では、それぞれの教育目標に即して求める学生像をアドミッション・ポリシーとして明確化した。以後、2014年度には、新たにディプロマポリシーとカリキュラムポリシーを定めてHP上に公開し、2016年度には、これら3つのポリシーの体系的見直しを行っている。また、大学全体の目的に加え、2017年度には学科・専攻ごとの目的を定め、公表した。

### 2. 三重短期大学の組織について

- ・学科・専攻・コース構成については2007年度以降継続している。
- ・専任教員は、助教以上が法経科14名、生活科学科15名の計29名で、教員1名当たりの在籍学生数は平均24名である。
- ・教員の年齢構成は、35歳以下が3名、45歳以下が12名、55歳以下が7名、65歳以下が7名であり、前年度に比して、35歳以下の若手教員の割合が増加している。
- ・教員の職階構成は、教授13名、准教授13名、講師1名、助教2名となっている。
- ・事務職員は、常勤職員が14名、非常勤職員等が13名となっており、常勤職員数は昨年度と変わらないが、非常勤職員等は1名増加している。

### 3. 教育課程の状況

- ・両学科の開設授業科目のうち専門教育科目における専任教員の担当比率は、生活科学専攻では40%とやや低いものの、法経科第1部が51%、法経科第2部が50%、食物栄養学専攻が53%あり、約半数が専任教員により担当されている。昨年度との比較では、法経科第2部が約7%減少しているのに対し、食物栄養学専攻が約6%増加している。
- ・在籍学生数は、食物栄養学専攻が若干定員を下回ったものの、法経科第1部、生活科学専攻は定員を充足している。法経科第2部は、在籍数が定員を充足していない状況が続いている。
- ・卒業判定の合格率は、昨年度の90.1%から88.1%へと若干減少しており、特に、法経科第2部の合格率が78.3%から68.4%へと、約10%も減少している。
- ・留年率は、昨年度の8.5%から7.2%へと若干減少しており、最近3年間は減少傾向にある。特に法経科第2部では、昨年度より約5%減少している。
- ・退学・休学状況では、退学率が昨年度の3.6%から2.3%へと減少しており、最近3年間は減少傾向にある。また、休学者数は3名おり昨年度より2名増加している。
- ・国家試験・資格試験の合格状況では、栄養士免許取得者が昨年度の50名から48名へと若干減少したものの、管理栄養士免許取得者が昨年度の7名から14名へと倍増している。教員免許取得者は、栄養教諭二種免許の4名のみであった(中学校教諭二種免許(社会・家庭)は廃止)。なお、栄養教諭課程は2018年度入学生から廃止されることとなった。
- ・卒業後の進路状況では、就職者数は、昨年度より法経科第1部は減少したが、法経科第2部と生活科学科は増加しており、生活科学科は30名の増加である。進学者数は、他大学への編入に関してみると、法経科第1部・第2部では昨年度とほぼ変わらないが、生活科学科専攻では10名減少している。

#### 4. 入試の状況

- ・定員充足率は、過去5年間、法経科第2部を除いて概ね100%を越えている。法経科第2部は、50%程度で推移している。
- ・入学定員に対する志願者の割合は、全学的にみると過去5年間、増減を繰り返しており、2017年度入試（2016年度実施）は、前年の1.84倍から1.59倍へと減少したが、2018年度では一転1.83倍となり、2016年度と同水準となっている。また、2017年度には生活科学科の志願者数が140名程度大幅に減少したが、2018年度には約120名増加し、2016年度の水準近くまで回復している。
- ・入試種別の入学者構成は、一般入試が41.5%（昨年度37.1%）、推薦入試が32.3%（34.4%）、センター利用入試が20.8%（22.1%）、社会人特別選抜が3.5%（4.6%）、関連分野特別選抜が1.9%（1.8%）となっており、一般入試の割合が昨年度より約4%増加している。

#### 5. 学生生活の状況

- ・学生相談室の利用状況は、年間17日開室され、非常勤の臨床心理士によるカウンセリングが行われているが、2017年度の相談件数は54件で、昨年度98件の半数近くまで減少している。
- ・奨学金給付・貸与状況は、在籍学生688名の31.5%（昨年度32.0%）に当たる217名が受給しており、一人当たりの平均受給額は年間約76万円である。ほとんどが日本学生支援機構奨学金の貸与である。
- ・授業料の減免は、半期ごとに認定されるが、2017年度前・後期合計で41件の申請に対して、全額免除21件、半額免除14件、合計35件が認定された。希望者数は過去3年間減少傾向にあり、昨年度より25件減少している。

#### 6. 専任教員の研究環境

- ・教員の研究費総額は1,285万円であり、学内外を合わせた教員1人当たりの平均研究費（経常研究費）は法経科で37.5万円、生活科学科で32.5万円である。そのうち設置者の支出によって手当てされる分の研究費総額に対する割合は、法経科が57%、生活科学科が40%である。
- ・科学研究費の採択状況は、2017年度は2件申請して1件採択された。
- ・教員研究室は、ほぼ個室が確保されているが、個室のない教員も生活科学科に1名いる。共同研究室も含めた研究室の平均面積は法経科で24.1㎡、生活科学科で27.3㎡である。
- ・助教を除く専任教員の担当授業時間数は、法経科は平均9.9時間であり、生活科学科では平均9.6時間である。

#### 7. 社会活動

- ・従来、本学が提供している公開講座としては、地域連携講座、出前講義、オープンカレッジがある。2017年度は合計37講座が開講され、1,342名の受講者があった。開講数は昨年度とほぼ同数であったが、参加者数は300名も大幅に減少した。また、1講座当たりの平均参加者数も2015年度の52名から38名へと減少した。

#### 8. 大学運営

- ・校地、校舎、講義室・演習室等の面積の増減はないが、校舎棟と管理棟をつなぐ渡り廊下の耐震改修がなされたほか、管理棟1階入口にスロープが設置され、バリアフリー化が図られた。
- ・図書館の収蔵冊数は97,448冊で、2017年度中に4,038冊増加した。一方、図書館の利用者数は3,000名、貸出冊数は5,630冊で、利用者数および貸出冊数ともに年々減少傾向にある。
- ・大学財政についてみると、歳入合計は5億8427万円で、そのうち授業料・入学金が2億6310万円、一般財源が2億5368万円となっている。歳出の内訳は、一般職給が4億1188万円、大学管理運営事業費9,050万円、施設維持補修事業5,281万円、教育研究関係事業費1,175万円、図書館管理運営事業1,386万円が主なものである。
- ・教授会は定例・臨時を含めて18回開催され、大学運営上の諸課題の審議に当たった。

## 9. 専任教員の活動状況

- ・専任教員の活動状況については、「三重短期大学教員研究・教育業績」として、教員ごとに研究活動・教育活動・社会における活動の状況を掲載した。

## 1. 三重短期大学の理念と目的・教育目標

### (1) 三重短期大学の理念

三重短期大学は、知の創造と継承を理念として、真理の探究とそれに基づく教育により優れた人材を育成するとともに、地域における知の拠点として、広く市民と連携し、協働することを通じて、地域の文化の向上及び豊かな地域社会の実現に寄与する。

#### 1) 教育研究の理念

- ・真理の探究（知の創造・継承・発展）

教育・研究活動を通じて、人類普遍の真理と真実を追究し、世界の平和と人類の福祉の向上、文化の批判的継承と創造に貢献する。

- ・優れた人材の育成

広い分野の総合的な知識と深い専門的学術を教授研究し、豊かな人間性と高い知性を備え、論理的で自主的な判断能力に加え、応用力や実践力に富む有為な人材を育成する。

高い公共性・倫理性を備え、民主的で文化的な社会の形成に主体的に参画する市民を育成する。

#### 2) 地域貢献の理念

津市の設置する公立短期大学として、地域の諸問題や社会の要請に対応した特色ある研究の推進を図り、その成果を積極的に地域に還元するとともに、高等教育に対する地域のニーズに的確に応え、生涯学習の振興に寄与することを通じて、地域社会に貢献する。

#### 3) 大学運営の理念

真理の探究と知の創造にかかわる、自律性と自発性に基づく教育研究活動を尊重し、促進する。

大学の自治とは、大学がいかなる利害からも自由に知の創造と発展を行うことを通じて広く人類社会に貢献することができるよう、国民から特に付託されたものであることを常に自覚し、教育研究及び管理運営に関して、主体的に点検と評価を進めるとともに、他者からの批判的評価を積極的に求め、その付託に伴う責務を自立的に果たすべく努める。

### (2) 三重短期大学の目的

学則に三重短期大学の目的は次のように定めている。

三重短期大学（以下「本学」という。）は、教育基本法（昭和 22 年法律第 25 号）にのっとり、広く教養を与えるとともに、深く専門の学術技能を教授研究し、有為の人材を育成して文化の進展に寄与することを目的とする。

### (3) 三重短期大学の教育目標

三重短期大学は、広い分野の総合的な知識と深い専門的学術を教授研究し、豊かな人間性と高い知性を備え、論理的で自主的な判断能力に加え応用力や実践力の富む有為な人材の育成を行う。

- ・創造性豊かな人間性と優れた専門性を備えた人材の育成  
文化・社会・人間・自然に関する人類の知的遺産を学び理解するとともに、基本的な知的思考能力を育成する。
- ・実社会で活躍できる知的・人間的資質を備えた人材の育成  
総合的に考える能力、科学的な思考法、適切な自己表現能力、自主的な課題発見・解決能力など応用力や実践力を育成する。
- ・地域社会を主体的に担う市民の育成  
高い公共性・倫理性を備え、民主的で文化的な社会の形成に主体的に参画する市民を育成する。
- ・国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力の養成  
グローバルな視野と国際感覚を身につけるとともに、コミュニケーション能力や情報社会に対応できる ICT（Information & Communication Technology）活用能力を育成する。



#### (4) 学科・専攻の目的

##### 法経科第1部

- ・法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する専門的な知識を身につけ、もって地域社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

##### 法経科第2部

- ・法律・政治・経済・経営など社会科学に関する幅広い教養を身につけ、自らの人生を豊かにするとともに、地域社会に貢献できる市民を育成することを目的とする。

##### 生活科学科

- ・生活者の視点から生活環境の改善や健康、福祉に対する深い造詣をもち、地域社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

##### 生活科学科食物栄養学専攻

- ・食と健康に関する専門知識と技能を備え、地域社会の食や健康問題に貢献できる人材を育成することを目的とする。

##### 生活科学科生活科学専攻

- ・地域社会の人々が豊かで幸福な生活が営めるように、福祉学や心理学ならびに居住環境の観点から地域社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

#### (5) 学科・専攻の教育目標

##### 法経科第1部

- ・法律・行政・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識の修得の上に、最新の学問的到達について一定の理解をもった人材を育成する。
- ・机上の学問にとどまらず、修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することのできる人材を育成する。
- ・社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけ、地域社会に貢献しうる見識ある職業人・市民の育成をめざす。

##### 法経科第2部

- ・社会科学についての基本的な素養を身につけた市民の育成をめざす。
- ・「学ぶことで自らの人生をより豊かなものにしたい」という願いを支援する。
- ・社会のみならず文化や自然についての幅広い教養の上に、広い視野と寛容さを身につけた、地域社会に貢献しうる見識ある市民の育成をめざす。

##### 生活科学科食物栄養学専攻

- ・食を通じた豊かな人間形成と、食に関する知識と技能を融和させて実践することができる専門性の高い教育を行う。
- ・科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解や対処ができる栄養士や栄養教諭などの食のスペシャリストを育成する。
- ・個人の食や健康問題に対応した栄養教育を実践できる能力を養い、地域社会の食や健康問題に貢献できる人材を育成する。

##### 生活科学専攻生活福祉・心理コース

- ・社会福祉学や心理学を中心に「理論」と「実践」を学び、現場で生きる知識と技術を備えた人材を育成する。
- ・学生の持つ個性や能力を最大限に引き出し、豊かな人間関係を築くことができる人材を育成する。
- ・人々や地域が抱える様々な課題を広い視野で総合的に考察・分析した上で、地域における生活者の一員として主体的に行動できる人材を育成する。

##### 生活科学専攻居住環境コース

- ・住まいやまちの環境を快適にする力を育成する。
- ・環境問題を認識し、環境共生のために住まいとまちの持ち味を生かす力を育成する。
- ・住まい・まちと福祉をつなぐ力を育成する。
- ・住まいとまちをつくる専門的な力を育成する。

表1 設置学科・専攻等

	学 科	部・専 攻	コ ー ス
三重短期大学	法経科	第1部<昭和44年4月>	法律コース<平成19年4月>
		第2部<昭和27年4月>	経商コース<平成19年4月>
	生活科学科	食物栄養学専攻<昭和44年4月>	
		生活科学専攻<平成3年4月>	生活福祉・心理コース<平成19年4月> 居住環境コース<平成19年4月>

表2 全学の教員組織（2017年度）

学科・部・専攻		専任教員数					助手	設置基準上 必要専任 教員数	専任教員1人あた りの在籍学生数 (表7の在籍数/A)	兼任教員数					兼任 教員数
		教授	准教授	講師	助教	計(A)				教授	准教授	講師	助教	計	
法経科	第1部	7	6	1		14		3	27.29	5	2			7	28
	第2部														
生活科学科	食物栄養学専攻	2	2		2	6		4	16.50						30
	生活科学専攻	4	5			9		4	23.00	3	2			5	41
合 計		13	13	1	2	29	0	18		8	4			12	115
短期大学全体の入学定員に応じ定める専任教員数								5							

[注] 1 専任とは、常勤する者をいい、兼任とは、学外からの兼務者を示す。

2 同一の兼任教員が複数の学科を担当する場合、重複して記載している。

3 2017年5月1日時点の状況を示す。

表3 専任教員個別表 (2017年度)

法経科

職名	氏名	性別	就職年月日	現職就任年月日	所属	授業科目								最終学歴及び学位称号	
						毎週授業時間数									
						科目名		講義		演習		実験・実習・実技			計
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
教授	タケツネ アツコ 竹添 敦子	女	1989/4/1	1995/4/1	法経科	文学Ⅰ	2.0						2.0	0.0	関西大学大学院文学研究科文学修士
						文学Ⅰ(法2)	2.0						2.0	0.0	
						文学Ⅱ		2.0					0.0	2.0	
						文学Ⅱ(法2)		2.0					0.0	2.0	
						独語Ⅰ	2.0	2.0					2.0	2.0	
						独語Ⅰ(法2)	2.0	2.0					2.0	2.0	
						比較文化論	2.0						2.0	0.0	
比較文化論(法2)	2.0						2.0	0.0							
計	12.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.0	8.0							
教授	タテシ ヨシオ 立石 芳夫	男	1999/10/1	2009/4/1	法経科法律コース	行政学		4.0					0.0	4.0	立命館大学大学院法学研究科法学修士
						行政学(法2)	4.0						4.0	0.0	
						地方政治論	4.0						4.0	0.0	
						自治体行政特論	2.0						2.0	0.0	
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						法学入門	0.3						0.3	0.0	
計	10.3	4.0	2.0	2.0	0.0	0.0	12.3	6.0							
教授	ムライ ミヨ子 村井 美代子	女	2003/4/1	2011/4/1	法経科	英語Ⅰ	2.0	2.0					2.0	2.0	大阪大学大学院文学研究科文学博士
						英語Ⅰ(法2)	2.0	2.0					2.0	2.0	
						英語講読	2.0	2.0					2.0	2.0	
						英語講読(法2)	2.0	2.0					2.0	2.0	
						キャリア形成セミナー	2.0						2.0	0.0	
計	10.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	8.0							
教授	クモト タカシ 楠本 孝	男	2004/4/1	2012/4/1	法経科法律コース	刑法	4.0						4.0	0.0	中央大学大学院法学研究科法学修士
						刑法(法2)	4.0						4.0	0.0	
						刑事政策		2.0					0.0	2.0	
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						法学基礎演習				2.0			0.0	2.0	
法学入門	0.3						0.3	0.0							
計	8.3	2.0	4.0	6.0	0.0	0.0	12.3	8.0							
教授	ミヤケ ヌウイチロウ 三宅 裕一郎	男	2008/10/1	2013/10/1	法経科法律コース	日本国憲法(日本国憲法Ⅰ・Ⅱ)	2.0	2.0					2.0	2.0	専修大学大学院法学研究科法学博士
						日本国憲法(法2)	4.0						4.0	0.0	
						憲法訴訟論	2.0						2.0	0.0	
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						法学基礎演習				2.0			0.0	2.0	
法学入門	0.3						0.3	0.0							
計	8.3	2.0	4.0	6.0	0.0	0.0	12.3	8.0							
教授	イシハラ ヨウスケ 石原 洋介	男	2006/4/1	2014/4/1	法経科経商コース	金融論		4.0					0.0	4.0	一橋大学大学院経済学研究科経済学修士
						金融論(法2)	4.0						4.0	0.0	
						国際経済論	2.0						2.0	0.0	
						国際経済論(法2)		2.0					0.0	2.0	
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
農林体験セミナー	2.0						2.0	0.0							
計	8.0	6.0	4.0	4.0	0.0	0.0	12.0	10.0							
教授	トミタ ジン 富田 仁	男	2009/4/1	2014/4/1	法経科法律コース	民法Ⅰ	4.0						4.0	0.0	成城大学大学院法学研究科法学修士
						民法Ⅰ(法2)	4.0						4.0	0.0	
						民法Ⅲ		2.0					0.0	2.0	
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						法学基礎演習				2.0			0.0	2.0	
法学入門	0.4						0.4	0.0							
計	8.4	2.0	4.0	6.0	0.0	0.0	12.4	8.0							
准教授	フジエダ リツ子 藤枝 律子	女	2010/4/1	2010/4/1	法経科法律コース	行政法	4.0						4.0	0.0	名古屋大学大学院法学研究科法学修士
						行政法(法2)		4.0					0.0	4.0	
						地方自治法		2.0					0.0	2.0	
						教育の基礎理論	0.1						0.1	0.0	
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
法学基礎演習				2.0			0.0	2.0							
法学入門	0.4						0.4	0.0							
計	4.5	6.0	4.0	6.0	0.0	0.0	8.5	12.0							
准教授	スギヤマ ナオン 杉山 直	男	2013/4/1	2013/4/1	法経科経商コース	経営学	4.0						4.0	0.0	中京大学大学院商学研究科経営学博士
						経営学(法2)		4.0					0.0	4.0	
						人的資源管理論	2.0						2.0	0.0	
						人的資源管理論(法2)		2.0					0.0	2.0	
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0							
計	6.0	6.0	4.0	4.0	0.0	0.0	10.0	10.0							
准教授	タナカ サトミ 田中 里美	女	2012/4/1	2015/4/1	法経科経商コース	会計学	0.8						0.8	0.0	明治大学大学院商学研究科商学博士
						会計学(法2)							0.0	0.0	
						税務会計論	0.5						0.5	0.0	
						上級簿記(経営特殊講義)							0.0	0.0	
						演習			0.5				0.5	0.0	
社会科学演習			0.4				0.4	0.0							
計	1.3	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0							

准教授	カナエ リョウ 金江 亮	男	2015/4/1	2015/4/1	法経科 経商 コース	経済原論	4.0						4.0	0.0	京都大学大学院 経済学研究科 経済学博士
						経済源論(法2)	4.0					4.0	0.0		
						経済学史		2.0				0.0	2.0		
						演習			2.0	2.0		2.0	2.0		
						社会科学演習			2.0	2.0		2.0	2.0		
計	8.0	2.0	4.0	4.0	0.0	0.0	12.0	6.0							
准教授	オオハタ サトシ 大畑 智史	男	2016/4/1	2016/4/1	法経科 経商 コース	財政学		4.0					0.0	4.0	東北大学大学院 経済学研究科 経済学修士
						財政学(法2)		4.0				0.0	4.0		
						地方財政論	2.0					2.0	0.0		
						地方財政論(法2)	2.0					2.0	0.0		
						演習			2.0	2.0		2.0	2.0		
社会科学演習			2.0	2.0		2.0	2.0								
計	4.0	8.0	4.0	4.0	0.0	0.0	8.0	12.0							
准教授	カワサキ コウシロウ 川崎 航史郎	男	2016/10/1	2016/10/1	法経科 法律 コース	労働法		4.0					0.0	4.0	龍谷大学大学院 法学研究科 法学博士
						労働法(法2)		4.0				0.0	4.0		
						社会保障法	2.0					2.0	0.0		
						法学基礎演習				2.0		0.0	2.0		
						演習			2.0	2.0		2.0	2.0		
						社会科学演習			2.0	2.0		2.0	2.0		
法学入門	0.3						0.3	0.0							
計	2.3	8.0	4.0	6.0	0.0	0.0	6.3	14.0							
講師	フシオ カズノリ 鷺尾 和紀	男	2017/4/1	2017/4/1	法経科 経商 コース	マーケティング論				4.0			0.0	4.0	高千穂大学大学院 経営学研究科 経営学博士
						マーケティング論(法2)				4.0		0.0	4.0		
						経営特殊講義	2.0					2.0	0.0		
						経営特殊講義(法2)	2.0					2.0	0.0		
						演習			2.0	2.0		2.0	2.0		
社会科学演習			2.0	2.0		2.0	2.0								
計	4.0	0.0	4.0	12.0	0.0	0.0	8.0	12.0							

生活科学科

職名	氏名	性別	就年月日	職年月日	現職就任年月日	所属	授業科目								最終学歴及び学位称号				
							科目名	講義		演習		実験・実習・実技		計					
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期		後期			
教授	トウフクジ 一郎	男	1982/4/1	1990/4/1	生活福祉・心理コース	発達と学習		2.0					0.0	2.0					
						発達と学習(法2)		2.0				0.0	2.0						
						心理学概論	2.0					2.0	0.0						
						教職実践演習(中学)				2.0		0.0	2.0						
						心理学基礎実験				4.0		4.0	0.0						
						福祉心理基礎演習				2.0		0.0	2.0						
						福祉心理演習			2.0	2.0		2.0	2.0						
						教育実習Ⅰ・Ⅱ 事前事後の指導				4.0	2.0	4.0	2.0						
						栄養教育実習 事前事後の指導				1.0	1.0	1.0	1.0						
						生活科学概論	0.1					0.1	0.0						
計	2.1	4.0	2.0	6.0	9.0	3.0	13.1	13.0											
教授	イトウ 貴美子	女	2003/4/1	2008/4/1	食物栄養専攻	食品学	2.0					2.0	0.0						
						食品学実験				3.0		3.0	0.0						
						食品衛生学Ⅰ	2.0					2.0	0.0						
						食品衛生学Ⅱ		2.0				0.0	2.0						
						食品の機能		2.0				0.0	2.0						
						食品衛生学実験					3.0	0.0	3.0						
						管理栄養特殊講義 特別演習		0.3				0.0	0.3						
						生活科学概論	0.1			4.0	4.0	4.0	4.0						
						計	4.1	4.3	4.0	4.0	3.0	3.0	11.1	11.3					
						教授	ミナミ 有哲	男	1999/4/1	2007/4/1	居住環境コース	環境論	2.0					2.0	0.0
環境論(法2)	2.0											2.0	0.0						
居住環境特別演習			4.0	4.0								4.0	4.0						
環境政策論		2.0										0.0	2.0						
環境政策論(法2)		2.0										0.0	2.0						
環境倫理学		2.0										0.0	2.0						
環境共生論	2.0											2.0	0.0						
生活経営	2.0											2.0	0.0						
生活科学概論	0.1											0.1	0.0						
計	8.1	6.0	4.0	4.0	0.0							0.0	12.1	10.0					
教授	ナガトモ 薫輝	男	2004/4/1	2013/4/1	生活福祉・心理コース	社会福祉論・社会福祉論Ⅰ	2.0					2.0	0.0						
						社会保障論Ⅱ		2.0				0.0	2.0						
						社会福祉援助技術演習Ⅰ				4.0		0.0	4.0						
						社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ		2.0				0.0	2.0						
						社会福祉援助技術現場実習Ⅰ					1.5	0.0	1.5						
						社会福祉援助技術現場実習Ⅱ				1.0		1.0	0.0						
						福祉心理基礎演習				2.0		0.0	2.0						
						福祉心理演習			2.0	2.0		2.0	2.0						
						生活科学概論	0.3					0.3	0.0						
						計	2.3	4.0	2.0	8.0	1.0	1.5	5.3	13.5					
教授	キノシタ 誠一	男	2009/4/1	2015/4/1	居住環境コース	居住福祉論		2.0				0.0	2.0						
						居住計画論	2.0					2.0	0.0						
						住生活論		2.0				0.0	2.0						
						住生活設計Ⅰ					4.0	0.0	4.0						
						住生活設計Ⅱ					4.0	4.0	0.0						
						居住環境特別演習			4.0	4.0		4.0	4.0						
						生活科学概論	0.1					0.1	0.0						
						計	2.1	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	10.1	12.0					
						教授	ヤマダ 徳広	男	2015/4/1	2015/4/1	食物栄養専攻	生化学	2.0					2.0	0.0
												生化学実験				3.0		3.0	0.0
ライフステージ栄養学	2.0											2.0	0.0						
管理栄養特殊講義		0.3										0.0	0.3						
食生活論		2.0										0.0	2.0						
栄養学		2.0										0.0	2.0						
栄養学実験					3.0							0.0	3.0						
生活科学概論	0.1											0.1	0.0						
計	4.1	4.3	0.0	0.0	3.0							3.0	7.1	7.3					
准教授	アベ 稚里	女	2006/4/1	2008/4/1	食物栄養専攻							栄養教育論Ⅰ	2.0					2.0	0.0
						栄養教育論実習Ⅰ				3.0		3.0	0.0						
						給食計画実務論実習Ⅱ				1.0	1.0	1.0	1.0						
						校外実習事前事後指導 特別演習			4.0	4.0		4.0	4.0						
						栄養教育論Ⅱ		2.0				0.0	2.0						
						栄養教育論実習Ⅱ					3.0	0.0	3.0						
						栄養教育実習					1.0	1.0	1.0	1.0					
						事前事後の指導						1.0	1.0						
						管理栄養特殊講義		0.3				0.0	0.3						
						教職実践演習(栄養)				2.0		0.0	2.0						
生活科学概論	0.1					0.1	0.0												
計	2.1	2.3	4.0	6.0	6.0	6.0	12.1	14.3											
准教授	キタムラ 香織	女	2007/4/1	2010/4/1	生活福祉・心理コース	社会保障論・社会保障論Ⅰ	2.0					2.0	0.0						
						社会福祉発達史	2.0					2.0	0.0						
						障害者福祉論	2.0					2.0	0.0						
						社会福祉援助技術現場実習Ⅱ				1.0		1.0	0.0						
						福祉心理演習			2.0			2.0	0.0						
						社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ	2.0					2.0	0.0						
生活科学概論	0.1					0.1	0.0												
計	8.1	0.0	2.0	0.0	1.0	0.0	11.1	0.0											

准教授	セドウ 清道	アツコ 亜都子	女	2013/10/1	2013/10/1	生活福祉・心 理コース	教育の基礎理論									0.0	0.0	休職中 名古屋大学大 学院 教育発達化学 研究科 教育学博士				
							教育の基礎理論(法2)													0.0	0.0	
							栄養教育実習 事前事後の指導														0.0	0.0
							教育実習Ⅰ・Ⅱ 事前事後の指導														0.0	0.0
							福祉心理演習														0.0	0.0
							福祉心理基礎演習														0.0	0.0
							教職実践演習(栄養)														0.0	0.0
							教職実践演習(中学)														0.0	0.0
							道徳教育の研究														0.0	0.0
							保育学(実習を含む)														0.0	0.0
生活科学概論													0.0	0.0								
計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0								
准教授	タケダ 武田	ノブカズ 誠一	男	2013/10/1	2013/10/1	生活福祉・心 理コース	医療福祉論	2.0								2.0	0.0	新潟大学大学 院 歯学総合研 究科医科学専 攻 医学修士				
							社会福祉援助技術論Ⅰ		4.0							0.0	4.0					
							社会福祉援助技術総論	4.0								4.0	0.0					
							福祉心理基礎演習				2.0					0.0	2.0					
							福祉心理演習			2.0	2.0					2.0	2.0					
							社会福祉援助技術現場実習Ⅰ							1.5		0.0	1.5					
							社会福祉援助技術現場実習Ⅱ						1.0			1.0	0.0					
							生活科学概論	0.1								0.1	0.0					
							計	6.1	4.0	2.0	4.0	1.0	1.5	9.1	9.5							
							都市計画論		2.0							0.0	2.0					
地域政策論	2.0								2.0	0.0												
地域政策論(法2)	2.0								2.0	0.0												
住環境計画	2.0								2.0	0.0												
地域環境学		2.0							0.0	2.0												
居住環境特別演習			4.0	4.0					4.0	4.0												
まちづくり設計Ⅰ					2.0				2.0	0.0												
まちづくり設計Ⅱ							2.0		0.0	2.0												
生活科学概論	0.1								0.1	0.0												
計	6.1	4.0	4.0	4.0	2.0	2.0	12.1	10.0														
准教授	コマダ 駒田	アイ 亜衣	女	2007/8/1	2014/4/1	食物栄 養学専 攻	給食計画実務論		2.0							0.0	2.0	青森県立保健 大学大学院健 康科学研究科 健康科学博士 医学博士				
							調理学	2.0									2.0		0.0			
							給食計画実務論実習Ⅰ					3.0				3.0	0.0					
							給食計画実務論実習Ⅱ					1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0					
							校外実習事前事後指導					1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0					
							調理学実習Ⅱ(調理学実習Ⅰ)							3.0		0.0	3.0					
							管理栄養特殊講義 特別演習	0.3		4.0	4.0					4.0	4.0					
							生活科学概論	0.1								0.1	0.0					
							計	2.1	2.3	4.0	4.0	5.0	5.0	11.1	11.3							
							情報と社会	2.0								2.0	0.0					
情報と科学		2.0							0.0	2.0												
情報と社会(法2)		2.0							0.0	2.0												
数理学	2.0								2.0	0.0												
情報処理実習Ⅰ						4.0			0.0	4.0												
情報処理実習Ⅰ(法2)					2.0				2.0	0.0												
居住環境特別演習			4.0	4.0					4.0	4.0												
生活科学概論	0.1								0.1	0.0												
計	4.1	4.0	4.0	4.0	2.0	4.0	10.1	12.0														
助教	イダ 飯田	ツキミ 津喜美	女	1990/4/1	2008/4/1	食物栄 養学専 攻	管理栄養特殊講義		0.3							0.0	0.3	三重短期大学 家政科食物栄 養学専攻				
							生活科学概論	0.1								0.1	0.0					
							計	0.1	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3						
助教	スキノ 杉野	カエ 香江	女	2017/4/1	2017/4/1	食物栄 養学専 攻	特別演習			4.0	4.0				4.0	4.0	鈴鹿医療科学 大学保健衛生 学研究科医療 栄養学専攻 修士					
							管理栄養特殊講義		0.3							0.0		0.3				
							生活科学概論	0.1								0.1		0.0				
計	0.1	0.3	4.0	4.0	0.0	0.0	4.1	4.3														

[注] 1 1 授業科目を複数の教員で担当する場合、当該授業時間数を担当者数で割り毎週授業時間数を算出した。

2 2017年5月1日時点の状況を示す。

表4 専任教員年齢構成 (2017年度)

学科	職位	61歳～	56歳～	51歳～	46歳～	41歳～	36歳～	31歳～	26歳～	計
		65歳	60歳	55歳	50歳	45歳	40歳	35歳	30歳	
法経科	教授	1	1	1	2	2	0	0	0	7
		14.3%	14.3%	14.3%	28.6%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	准教授	0	2	0	0	0	3	1	0	6
		0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	16.7%	0.0%	100.0%
講師	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	
助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
合計		1	3	1	2	2	3	2	0	14
		7.1%	21.4%	7.1%	14.3%	14.3%	21.4%	14.3%	0.0%	100.0%
定年 65歳										

学科	職位	61歳～	56歳～	51歳～	46歳～	41歳～	36歳～	31歳～	26歳～	計
		65歳	60歳	55歳	50歳	45歳	40歳	35歳	30歳	
生活科学科	教授	2	0	2	1	1	0	0	0	6
		33.3%	0.0%	33.3%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	准教授	0	1	0	0	2	4	0	0	7
		0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	28.6%	57.1%	0.0%	0.0%	100.0%
講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
助教	0	0	1	0	0	0	1	0	2	
	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100.0%	
合計		2	1	3	1	3	4	1	0	15
		13.3%	6.7%	20.0%	6.7%	20.0%	26.7%	6.7%	0.0%	100.0%
定年 65歳										

学科	職位	61歳～	56歳～	51歳～	46歳～	41歳～	36歳～	31歳～	26歳～	計
		65歳	60歳	55歳	50歳	45歳	40歳	35歳	30歳	
全学科	教授	3	1	3	3	3	0	0	0	13
		23.1%	7.7%	23.1%	23.1%	23.1%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	准教授	0	3	0	0	2	7	1	0	13
		0.0%	23.1%	0.0%	0.0%	15.4%	53.8%	7.7%	0.0%	100.0%
講師	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	
助教	0	0	1	0	0	0	1	0	2	
	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100.0%	
合計		3	4	4	3	5	7	3	0	29
		10.3%	13.8%	13.8%	10.3%	17.2%	24.1%	10.3%	0.0%	100.0%
定年 65歳										



表5 事務組織（2017年度）

	部署名	担当名	専任職員	兼務職員	常勤嘱託員	臨時職員	その他	計
			うち管理職					
短期大学業務系	短期大学事務局		1	1				1
	学生部	教務学生担当	6	1(1)		2		8
	大学総務課	総務担当	4	2		8	1	13
		地域連携センター		3				
	附属図書館	図書担当	3	1(1)		2		5
合計		14	5(2)	3	0	12	1	27

[注] 1 ( ) 内数字は、教員が管理職を担当している数を示す。

2 計には兼務職員を含まない。

表6 学科の開設授業科目における専兼比率

[2015年度]

学 科・部・専 攻			必修科目	選択必修科目	全開設授業科目	
法経科	第1部	専門教育	専任担当科目数 (A)	1	30	31
			兼任担当科目数 (B)	0	23	23
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	100.00	56.60	57.41
		教養教育	専任担当科目数 (A)	2.33	12.5	14.83
			兼任担当科目数 (B)	3.66	19.5	22.32
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	38.90	39.06	39.92
	第2部	専門教育	専任担当科目数 (A)	1	19	20
			兼任担当科目数 (B)	0	17	17
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	100.00	52.78	54.05
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1	13	14
			兼任担当科目数 (B)	3	19	22
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	25.00	45.68	38.89
生活科学科	食物栄養学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	8	21	29
			兼任担当科目数 (B)	12	16	28
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	40.00	56.76	50.88
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.33	12.5	13.83
			兼任担当科目数 (B)	3.66	19.5	21.32
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	26.65	39.06	39.35
	生活科学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	2	30	32
			兼任担当科目数 (B)	0	50	50
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	100.00	37.50	39.02
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.33	12.5	13.83
			兼任担当科目数 (B)	3.66	19.5	23.16
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	26.65	39.06	37.39

[2016年度]

学 科・部・専 攻			必修科目	選択必修科目	全開設授業科目	
法経科	第1部	専門教育	専任担当科目数 (A)	1	28.5	29.5
			兼任担当科目数 (B)	0	27.5	27.5
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	100.00	50.89	51.75
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.75	12.84	14.59
			兼任担当科目数 (B)	4.25	19.16	23.41
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	29.17	40.13	38.39
	第2部	専門教育	専任担当科目数 (A)	1	19	20
			兼任担当科目数 (B)	0	15	15
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	100.00	55.88	57.14
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.5	13.5	15
			兼任担当科目数 (B)	2.5	18.5	21
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	37.50	42.19	41.67
生活科学科	食物栄養学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	4	16	20
			兼任担当科目数 (B)	3	20	23
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	57.14	44.44	46.51
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.75	12.84	14.59
			兼任担当科目数 (B)	3.25	19.16	22.41
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	35.00	40.13	39.43
	生活科学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	2	31	33
			兼任担当科目数 (B)	0	50	50
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	100.00	38.27	39.76
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.75	12.84	14.59
			兼任担当科目数 (B)	3.25	19.16	22.41
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	35.00	40.13	39.43

[2017年度]

学 科 ・ 部 ・ 専 攻			必修科目	選択必修科目	全開設授業科目	
法経科	第1部	専門教育	専任担当科目数 (A)	1	28.5	29.5
			兼任担当科目数 (B)	0	28.5	28.5
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	100.00	50.00	50.86
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.75	11.84	13.59
			兼任担当科目数 (B)	4.25	20.16	24.41
	第2部	専門教育	専任担当科目数 (A)	1	18	19
			兼任担当科目数 (B)	0	19	19
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	100.00	48.65	50.00
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.5	12.5	14
			兼任担当科目数 (B)	2.5	19.5	22
生活科学科	食物栄養学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	5	26	31
			兼任担当科目数 (B)	2	26	28
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	71.43	50.00	52.54
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.75	11.84	13.59
			兼任担当科目数 (B)	3.25	20.16	23.41
	生活科学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	2	31	33
			兼任担当科目数 (B)	0	50	50
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	100.00	38.27	39.76
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.75	11.84	13.59
			兼任担当科目数 (B)	3.25	20.16	23.41
		専兼比率 % (A / (A+B) *100)	35.00	37.00	36.73	

[注] 1 「全開設授業科目」とは、必修科目と選択必修科目をあわせたものである。

2 専任担当科目数には、他学科の専任教員による兼担科目も含む。

表7 学科・専攻別の学生定員及び在籍学生数

[2015年度]

学科	部・専攻	入定 学員	収容 定員 (A)	在籍学生 総数 (B)	B/A	在籍学生数				備考
						1年次	2年次			
						学生数	学生数 (C)	留年者数 (内数) (D)	留年率 D/C (%)	
法経科	第1部	100	200	210	1.06	104	106	7	6.60	
	第2部	150	300	158	0.54	68	90	17	18.89	
計		250	500	368	0.75	172	196	24	12.25	
生活科学科	食物栄養学専攻	50	100	107	1.08	54	53	4	7.55	
	生活科学専攻	100	200	209	1.10	98	111	4	3.60	
計		150	300	316	1.09	152	164	12	7.32	
合計		400	800	684	0.88	324	360	36	10.00	

2015年5月1日現在

[2016年度]

学科	部・専攻	入定 学員	収容 定員 (A)	在籍学生 総数 (B)	B/A	在籍学生数				備考
						1年次	2年次			
						学生数	学生数 (C)	留年者数 (内数) (D)	留年率 D/C (%)	
法経科	第1部	100	200	210	1.05	101	109	5	4.59	
	第2部	150	300	170	0.57	87	83	18	21.69	
計		250	500	380	0.76	188	192	23	11.98	
生活科学科	食物栄養学専攻	50	100	105	1.05	51	54	2	3.70	
	生活科学専攻	100	200	208	1.04	111	97	4	4.12	
計		150	300	313	1.04	162	151	6	3.97	
合計		400	800	693	0.87	350	343	29	8.45	

2016年5月1日現在

[2017年度]

学科	部・専攻	入定 学員	収容 定員 (A)	在籍学生 総数 (B)	B/A	在籍学生数				備考
						1年次	2年次			
						学生数	学生数 (C)	留年者数 (内数) (D)	留年率 D/C (%)	
法経科	第1部	100	200	202	1.01	98	104	6	5.77	
	第2部	150	300	180	0.60	85	95	16	16.84	
計		250	500	382	0.76	183	199	22	11.06	
生活科学科	食物栄養学専攻	50	100	99	0.99	48	51	0	0.00	
	生活科学専攻	100	200	207	1.04	95	112	4	3.57	
計		150	300	306	1.02	143	163	4	2.45	
合計		400	800	688	0.86	326	362	26	7.18	

2017年5月1日現在

[注] 1 2年次学生数のうち、留年者数は、前年度の卒業判定不合格者から退学者等を引いた数。

表8 国家試験・資格試験合格率および卒業免許取得率

[2015年度]

学科・部・専攻	国家試験・資格試験の名称	受験者数 (A)	合格者数 (B) (取得者数)	合格率 (%) B/A
<b>【国家試験・資格試験】</b>				
生活科学科食物栄養学専攻	管理栄養士	40	5	12.5
生活科学科生活科学専攻	2級建築士			
	社会福祉士		3	
<b>【卒業免許】</b>				
法経科第1部	中学校教諭(社会科)二種免許	3	3	100.0
生活科学科食物栄養学専攻	栄養士免許	51	43	84.3
生活科学科食物栄養学専攻	栄養教諭二種免許	4	4	100.0
生活科学科生活科学専攻	中学校教諭(家庭科)二種免許	3	3	100.0

[2016年度]

学科・部・専攻	国家試験・資格試験の名称	受験者数 (A)	合格者数 (B) (取得者数)	合格率 (%) B/A
<b>【国家試験・資格試験】</b>				
生活科学科食物栄養学専攻	管理栄養士	35	7	20.0
生活科学科生活科学専攻	2級建築士			
	社会福祉士			
<b>【卒業免許】</b>				
法経科第1部	中学校教諭(社会科)二種免許	0	0	
生活科学科食物栄養学専攻	栄養士免許	54	50	92.6
生活科学科食物栄養学専攻	栄養教諭二種免許	3	2	66.7
生活科学科生活科学専攻	中学校教諭(家庭科)二種免許	5	5	100.0

[2017年度]

学科・部・専攻	国家試験・資格試験の名称	受験者数 (A)	合格者数 (B) (取得者数)	合格率 (%) B/A
<b>【国家試験・資格試験】</b>				
生活科学科食物栄養学専攻	管理栄養士	33	14	42.4
生活科学科生活科学専攻	2級建築士			
	社会福祉士	6	2	33.3
<b>【卒業免許】</b>				
法経科第1部	中学校教諭(社会科)二種免許	0	0	
生活科学科食物栄養学専攻	栄養士免許	51	48	88.0
生活科学科食物栄養学専攻	栄養教諭二種免許	4	4	100.0
生活科学科生活科学専攻	中学校教諭(家庭科)二種免許	5	5	100.0

[注] 1 受験者数、合格者数が把握できない場合は、空欄とした。

表9 卒業判定

学科・部・専攻		2015年度			2016年度			2017年度		
		卒業予定者 (A)	合格者 (B)	合格率 (%) B/A	卒業予定者 (A)	合格者 (B)	合格率 (%) B/A	卒業予定者 (A)	合格者 (B)	合格率 (%) B/A
法経科	第1部	106	94	88.7	109	100	91.7	104	96	92.3
	第2部	90	64	71.1	83	65	78.3	95	65	68.4
計		196	158	80.6	192	165	85.9	199	161	80.9
生活科学科	食物栄養学専攻	53	51	96.2	54	54	100.0	51	51	100.0
	生活科学専攻	111	105	94.6	97	90	92.8	112	107	95.5
計		164	156	95.1	151	144	95.4	163	158	96.9
合計		360	314	87.2	343	309	90.1	362	319	88.1

[注] 1 卒業予定者数は、各年度とも5月1日現在

表10 就職・進学状況

学 科	部・専攻	進 路	2015年度	2016年度	2017年度	
法経科	第1部	就職	民間企業	55	64	59
			官公庁	8	11	8
			上記以外	0	0	0
		進学	他大学編入	21	15	15
			上記以外	2	2	2
			そ の 他	5	8	12
	合 計			91	100	96
	第2部	就職	民間企業	18	17	25
			官公庁	3	0	0
			上記以外	0	0	0
		進学	他大学編入	15	14	13
			上記以外	2	1	2
そ の 他			20	28	25	
合 計			58	60	65	
法経科 計			149	160	161	
生活科学科	食物栄養学 専攻	就職	民間企業	45	40	44
			官公庁	2	0	0
			上記以外	0	0	0
			( A )	( 29 )	( 28 )	( 35 )
		進学	他大学編入	3	4	1
			上記以外	0	4	2
	そ の 他			0	5	4
	合 計			50	53	51
	生活科学 専攻	就職	民間企業	72	44	73
			官公庁	5	2	0
			上記以外	0	0	0
		進学	他大学編入	10	21	11
			上記以外	6	2	6
			そ の 他	12	20	17
	合 計			105	89	107
生活科学科 計			155	142	158	

[注] 1 「その他」は、当該学科の各年度の卒業生（9月卒業を含む）のうち就職・進学のいずれもしないものの人数を示す。

「(A)」は、教職や栄養士等の有資格者として職業に就いた卒業生数を示す。

2 就職については、契約社員（契約が1年以上かつ30時間以上勤務の場合）も含む。

表11 学科の退学者・休学者数

【退学者】

学 科	部・専攻	2015年度				2016年度				2017年度			
		1年次	2年次	合計	退学率 (%)	1年次	2年次	合計	退学率 (%)	1年次	2年次	合計	退学率 (%)
法経科	第1部	0	7(3)	7	3.3	3	3(1)	6	2.9	5	2(2)	7	3.5
	第2部	4	8(3)	12	7.6	4	9(4)	13	7.6	3	5(2)	8	4.4
計		4	15(6)	19	5.2	7	12(5)	19	5.0	8	7(4)	15	3.9
生活科学科	食物栄養学専攻	2	0(0)	2	1.9	0	0(0)	0	0.0	0	0(0)	0	0.0
	生活科学専攻	5	2(1)	7	3.3	2	4(2)	6	2.9	1	0(0)	1	0.5
計		7	2(1)	9	2.8	2	4(2)	6	1.9	1	0(0)	1	0.3
合 計		11	17(7)	28	4.1	9	16(7)	25	3.6	9	7(4)	16	2.3

【休学者】

学 科	部・専攻	2015年度			2016年度			2017年度		
		1年次	2年次	合計	1年次	2年次	合計	1年次	2年次	合計
法経科	第1部	0	0(0)	0	0	0(0)	0	1	0(0)	1
	第2部	0	0(0)	0	0	1(1)	1	0	1(0)	1
計		0	0(0)	0	0	1(1)	1	1	1(0)	2
生活科学科	食物栄養学専攻	0	0(0)	0	0	0(0)	0	0	0(0)	0
	生活科学専攻	0	1(1)	1	0	0(0)	0	1	0(0)	1
計		0	1(1)	1	0	0(0)	0	1	0(0)	1
合 計		0	1(1)	1	0	1(1)	1	2	1(0)	3

- [注] 1 ( ) 内の数字は3年次以上生の学生数を内数で示したもの。  
 2 退学率については、各年度の5月1日現在の学生数に占める割合とする。  
 3 休学者数は延べ人数で示した。



表12 学科の志願者・合格者・入学者数の推移

学科	部・専攻	入試の種類		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	過去5年 間におけるA/B の平均
法 経 科	第 1 部	推薦入試	志願者	61	71	73	71	67	107.0%
			合格者	50	50	53	54	53	
			入学者	50	50	51	54	53	
			入学定員	50	50	50	50	50	
		一般入試	志願者	130	122	99	128	120	
			合格者	71	67	69	70	77	
			入学者	43	43	45	38	62	
			入学定員	40	40	40	40	40	
		センター利用入試	志願者	90	49	48	45	40	
			合格者	34	25	24	21	31	
			入学者	13	11	6	6	10	
			入学定員	10	10	10	10	10	
		第1部 計	志願者	281	242	220	244	227	
			合格者	155	142	146	145	161	
			入学者(A)	106	104	102	98	125	
			入学定員(B)	100	100	100	100	100	
	A/B		1.06	1.04	1.02	0.98	1.25		
	第 2 部	推薦入試	志願者	17	24	25	25	34	52.7%
			合格者	15	20	23	22	28	
			入学者	13	14	16	11	12	
			入学定員	30	30	30	30	30	
		一般入試	志願者	39	24	23	38	28	
			合格者	32	20	19	29	23	
			入学者	29	18	19	26	21	
			入学定員	40	40	40	40	40	
		センター利用入試	志願者	62	45	49	51	54	
			合格者	58	43	46	50	53	
			入学者	26	25	31	33	31	
入学定員			50	50	50	50	50		
社会人特別選抜		志願者	12	13	23	18	12		
		合格者	12	11	21	17	12		
		入学者	12	11	20	15	12		
		入学定員	30	30	30	30	30		
第2部 計		志願者	130	106	120	132	128		
		合格者	117	94	109	118	116		
		入学者(A)	80	68	86	85	76		
		入学定員(B)	150	150	150	150	150		
	A/B	0.53	0.45	0.57	0.57	0.51			
学科 合計	志願者	411	348	340	376	355	74.4%		
	合格者	272	236	255	263	277			
	入学者(A)	186	172	188	183	201			
	入学定員(B)	250	250	250	250	250			
	A/B	0.74	0.69	0.75	0.73	0.80			

[注] 1 各入学定員が若干名の場合は「0」とした。

学科	部・専攻	入試の種類		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	過去5年 間における A/B の平均
生活科学科	食物栄養学専攻	推薦入試	志願者	37	42	52	29	38	103.6%
			合格者	20	21	21	21	23	
			入学者	20	21	21	21	23	
			入学定員	20	20	20	20	20	
		一般入試	志願者	70	79	81	47	75	
			合格者	45	49	42	39	45	
			入学者	27	31	27	21	29	
			入学定員	25	25	25	25	25	
		センター利用入試	志願者	18	18	11	14	21	
			合格者	12	10	7	13	14	
			入学者	2	2	3	6	5	
			入学定員	5	5	5	5	5	
		専攻計	志願者	125	139	144	90	134	
			合格者	77	80	70	73	82	
			入学者 (A)	49	54	51	48	57	
			入学定員 (B)	50	50	50	50	50	
	A/B		0.98	1.08	1.02	0.96	1.14		
	生活科学専攻	推薦入試	志願者	37	34	44	26	33	105.4%
			合格者	37	34	42	26	32	
			入学者	37	34	42	26	32	
			入学定員	45	45	45	45	45	
		一般入試	志願者	68	56	72	65	73	
			合格者	60	53	54	61	67	
			入学者	42	31	30	36	42	
			入学定員	35	30	30	30	30	
		センター利用入試	志願者	92	62	125	70	129	
			合格者	51	60	54	68	61	
入学者			20	29	31	27	31		
入学定員			15	20	20	20	20		
関連分野特別選抜		志願者	7	2	6	6	7		
		合格者	7	2	6	6	7		
		入学者	7	2	6	6	7		
		入学定員	5	5	5	5	5		
社会人特別選抜		志願者	4	2	3	1	1		
		合格者	4	2	2	0	1		
		入学者	4	2	2	0	1		
		入学定員	0	0	0	0	0		
専攻計	志願者	208	156	250	168	243			
	合格者	159	151	158	161	168			
	入学者 (A)	110	98	111	95	113			
	入学定員 (B)	100	100	100	100	100			
	A/B	1.10	0.98	1.11	0.95	1.13			
学科 合計	志願者	333	295	394	258	377	104.8%		
	合格者	236	231	228	234	250			
	入学者 (A)	159	152	162	143	170			
	入学定員 (B)	150	150	150	150	150			
	A/B	1.06	1.01	1.08	0.95	1.13			
短期大学 合計	志願者	744	643	734	634	732	85.8%		
	合格者	508	467	483	497	527			
	入学者 (A)	345	324	350	326	371			
	入学定員 (B)	400	400	400	400	400			
	A/B	0.86	0.81	0.88	0.82	0.93			

[注] 2 各入学定員が若干名の場合は「0」とした。

表13 学科の入学者の構成（2018年度）

学 科	部・専 攻		入 学 者 数					備 考	
			一般入試	推薦入試	センター 利用入試	社会人特 別選抜	関連分野 特別選抜		計
法経科	第1部	入学定員	40	50	10			100	
		入学者数	62	53	10			125	
		計に対する割合	49.6%	42.4%	8.0%	%	%	100.0%	
	第2部	入学定員	40	30	50	30		150	
		入学者数	21	12	31	12		76	
		計に対する割合	27.6%	15.8%	40.8%	15.8%	%	100.0%	
生活科 学科	食物栄養学専攻	入学定員	25	20	5			50	
		入学者数	29	23	5			57	
		計に対する割合	50.9%	40.4%	8.7%	%	%	100.0%	
	生活科学専攻	入学定員	30	45	20	0	5	100	
		入学者数	42	32	31	1	7	113	
		計に対する割合	37.1%	28.3%	27.4%	0.9%	6.2%	100.0%	
	計	入学定員	55	65	25	0	5	150	
		入学者数	71	55	36	1	7	170	
		計に対する割合	41.8%	32.4%	21.2%	0.6%	4.1%	100.0%	
合 計	入学定員	135	145	85	30	5	400		
	入学者数	154	120	77	13	7	371		
	計に対する割合	41.5%	32.3%	20.8%	3.5%	1.9%	100.0%		

2018年4月5日現在

[注] 1 各入学定員が若干名の場合は「0」とした。また、当該入試制度を導入していない場合は、空欄とした。

表14 学生相談室利用状況

施設の名称	専任 スタッフ 数	非常勤 スタッフ 数	週当たり 開室日数	年間 開室日数	開室時間	年間相談件数			備 考
						2015年度	2016年度	2017年度	
学生相談室	0	1	0.5	17	10 : 00 ~ 17:00	115	98	54	臨床心理士

表15 奨学金給付・貸与状況（2017年度）

（単位：千円）

奨学金の名称	給付・貸与の別	支給対象学生数 (A)	在籍学生総数 (B)	在籍学生数に対する比率 (%) A/B	支給総額 (C)	1件あたり支給額 C/A
日本学生支援機構奨学金	貸与	213	688	31.0%	164,924	774
天野奨学金	給付	1		0.1%	84	84
伊勢市奨学金	給付	2		0.3%	192	96
島根県育英会	貸与	1		0.1%	360	360
計		217	688	31.5%	165,560	763

表16 授業料免除状況

(人)

年度		2015年度		2016年度		2017年度	
学期		前期	後期	前期	後期	前期	後期
希望者		27	51	28	38	12	29
全額免除	総数	7	21	13	17	6	15
	法経科第1部	2	6	3	5	2	4
	法経科第2部	1	5	2	2	0	1
	生活科学科	4	10	8	10	4	2
	1年次	0	10	0	5	0	5
	2年次	7	11	13	12	6	10
半額免除	総数	16	20	13	18	5	9
	法経科第1部	7	6	1	2	1	2
	法経科第2部	4	4	3	3	0	0
	生活科学科	5	10	9	13	4	7
	1年次	0	9	0	5	0	2
	2年次	16	11	13	13	5	7
不採用		4	10	2	3	1	5

表17 教員研究費

学科	研究費の内訳	2015年度			2016年度			2017年度			
		研究費 (円)	研究費総 額に対する 割合 (%)	教員1人 あたりの 額	研究費 (円)	研究費総 額に対する 割合 (%)	教員1人 あたりの 額	研究費 (円)	研究費総 額に対する 割合 (%)	教員1人 あたりの 額	
法経科	学内	研究費総額	5,460,000	100%	390,000	5,460,000	100%	390,000	5,650,000	100%	375,000
		経常研究費	3,430,000	63%	245,000	3,430,000	63%	245,000	3,220,000	57%	230,000
		学内共同研究費			0			0			0
	学外	経常研究費	2,030,000	37%	145,000	2,030,000	37%	145,000	2,030,000	36%	145,000
		科学研究費補助金			0			0	400,000	7%	—
		政府もしくは政府関連 法人からの研究助成金			0			0			0
		民間の研究助成財団 等からの研究助成金			0			0			0
		奨学寄附金			0			0			0
		受託研究費			0			0			0
		共同研究費			0			0			0
その他			0			0			0		
生活 科学科	学内	研究費総額	6,960,000	100%	340,000	8,740,000	100%	340,000	7,200,000	100%	325,000
		経常研究費	3,120,000	45%	195,000	3,120,000	36%	195,000	2,880,000	40%	180,000
		学内共同研究費			0			0			0
	学外	経常研究費	2,320,000	33%	145,000	2,320,000	26%	145,000	2,320,000	32%	145,000
		科学研究費補助金	1,520,000	22%	—	2,800,000	32%	—	1,000,000	14%	—
		政府もしくは政府関連 法人からの研究助成金			0			0			0
		民間の研究助成財団 等からの研究助成金			0			0	1,000,000	14%	—
		奨学寄附金			0	500,000	6%	—			
		受託研究費			0			0			0
		共同研究費			0			0			0
その他			0			0			0		

[注] 1 「教員1人あたりの額」は、個人研究費を含まない。

2 「学外の経常研究費」は、教育振興会からの研究費・旅費補助を含む。

表18 科学研究費の採択状況

学科	文 科 省 科 学 研 究 費								
	2015年度			2016年度			2017年度		
	申請 件数(A)	採択 件数(B)	採択率 (%)	申請 件数(A)	採択 件数(B)	採択率 (%)	申請 件数(A)	採択 件数(B)	採択率 (%)
法経科	0	0	0.0	1	0	0.0	0	0	0.0
生活科学科	1	0	0.0	2	1	50.0	2	1	50.0
計	1	0	0.0	3	1	33.3	2	1	50.0

[注] 1 採択件数には、当該年度新規に採択された件数のみ示す。



表19 教員研究室の状況（2017年度）

学 科	室 数			総面積 (㎡)	1室あたりの 平均面積 (㎡)		専任教員数  (B)	個室率 (%)  A/B	教員1人あた りの平均面積 (㎡)	備 考
	個室(A)	共 同	計		個 室	共 同				
法経科	14	1	15	313.0	19.5	40.0	13	108%	24.1	
生活科学科	14	1	15	409.1	26.9	32.5	15	93%	27.3	1
計	28	2	30	722.1						

[注] 1 「備考」欄には、個室を持たない教員数を示す。

表20 専任教員の担当授業時間数（2017年度）

法経科（14人）

教員 区分	教 授	准 教 授	講 師	助 教	備 考
最 高	12.4 授業時間	12.0 授業時間			1 授業時間:45分
最 低	10.0 授業時間	2.2 授業時間			
平 均	11.9 授業時間	7.9 授業時間	8.0 授業時間 ※		

生活科学科（15人）

教員 区分	教 授	准 教 授	講 師	助 教	備 考
最 高	13.1 授業時間	12.1 授業時間		4.1 授業時間	1 授業時間:45分
最 低	5.3 授業時間	0.0 授業時間		0.1 授業時間	
平 均	9.8 授業時間	9.4 授業時間		2.1 授業時間	

[注] 1 表3で算出した前期の毎週授業時間数をもとに、1週間あたりの授業時間数を記載した。

[注] 2 在外研修及び休職、並びに後期就職者を含む。

[注] 3 ※は教員1名であるため、平均の区分欄に記載した。

表21 公開講座の開設状況

講座名	年間開設講座数(A)			募集人員(延べ数)			参加者(延べ数)(B)			1講座当たりの 平均受講者数 (B)/(A)		
	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
オープンカレッジ	10	10	10	600	600	600	448	562	405	45	56	41
地域連携講座	2	2	2	120	120	120	121	123	73	61	62	37
出前講座	20	26	25	—	—	—	849	957	864	42	37	35
計	32	38	37	720	720	720	1,418	1,642	1,342	49	52	38

表22 校地・校舎、講義室・演習室等の面積（2017年度）

校 地 ・ 校 舎				講 義 室 ・ 演 習 室 等	
校地面積 (m <sup>2</sup> )	設置基準上必要 校地面積 (m <sup>2</sup> )	校舎面積(m <sup>2</sup> )	設置基準上必要 校舎面積 (m <sup>2</sup> )	講義室・演習 室・ 学生実習室総数	講義室・演習室・ 学生実習室 総面積 (m <sup>2</sup> )
24,871m <sup>2</sup>	8,000m <sup>2</sup>	6,982m <sup>2</sup>	5,700m <sup>2</sup>	27	2,530m <sup>2</sup>

[注] 1 校舎面積には、講義室、演習室、学生実習室、実験・実習室、研究室、附属図書館（書庫、閲覧室、事務室）、管理関係施設（学長室、応接室、事務室、医務室等）、大学ホール、クラブハウス、廊下、便所等を含む。

表23 学科・専攻毎の講義室・演習室等の面積・規模（2017年度）

講義室・演習室 学生自習室等	室数	総面積 (㎡)	専用・共用 の別	収容人員 (総数)	学生総数	在籍学生1人あ たり面積(㎡)	備考
講義室			生活専用				
			法経専用				
	11	1,124	共用	940	688	1.63	
演習室	1	45	生活専用	12	306	0.15	
	5	75	法経専用	60	382	0.20	
	2	160	共用	75	688	0.23	
実験室	2	265	生活専用	100	306	0.86	
			法経専用				
			共用				
実習室	5	700	生活専用	241	306	2.29	
			法経専用				
	1	161	共用	52	688	0.23	
体育館	1	1,519	共用				

表24 図書資料の所蔵数（2017年度）

図書館の名称	図書の冊数（冊）		定期刊行物の種類（種類）		視聴覚資料の所蔵数（点数）	電子ジャーナルの種類（種類）	過去3年間の図書受け入れ状況（冊）			備考
	図書の冊数	開架図書の冊数（内数）	内国書	外国書			2015年度	2016年度	2017年度	
三重短期大学附属図書館	97,448	35,000	105種類	31種類	955点	0種類	2,048	1,197	4,038	

[注] 1 視聴覚資料の所蔵数は、点数を示す。

表25 学生閲覧室等の面積・座席数（2017年度）

図書館の名称	図書館の面積 (㎡)	学生閲覧室	学生収容定員 (B)	収容定員に対する 座席数の割合(%) A/B	その他の学習 室の座席数
		座席数 (A)			
三重短期大学附属図書館	404㎡	76	800	9.5	0

表26 図書館利用状況

図書館の 名称	専任 スタッ フ数	非常勤 スタッ フ数	年間 開館日 数	開館時間	年間利用者数(延べ数)			年間貸出冊数		
					2015年度	2016年度	2017年度	2015年度	2016年度	2017年度
三重短期大 学 附属図書館	2 (2)	1.5 (1.5)	225	月～金 8:30～21:00	3,343人	3,249人	3,000人	6,125冊	6,003冊	5,630冊
				土 10:30～19:00 (1月・7月第3土曜日のみ)	教職員 337 学生 3,006	教職員 289 学生 2,960	教職員 363 学生 2,637	教職員 661 学生 5,464	教職員 783 学生 5,220	教職員 782 学生 4,848
				日祭日						
				長期休暇中 8:30～17:00						

[注] 1 ( ) 内数字は司書の資格を有するものの人数を示す。

2 年間利用者数・貸出冊数には、一般開放による地域住民等は含まない。

3 非常勤スタッフについては、夜間のみのスタッフを0.5と換算する。



表27 歳入・歳出決算表

(円)

歳入・出	内訳	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
歳入合計		556,310,210	591,250,490	611,114,496	551,468,097	539,918,913	584,273,026	561,618,000
	授業料	221,812,500	217,005,000	223,595,500	217,225,000	219,779,000	215,652,500	210,924,000
	入学料	62,946,000	50,357,000	52,150,400	55,925,100	53,821,000	47,446,100	51,130,000
	入学検定料	12,287,000	13,562,000	11,634,000	13,348,000	11,513,000	13,203,000	12,480,000
	その他歳入	8,039,977	45,614,437	8,782,133	7,959,822	7,894,488	54,290,884	7,333,000
	一般財源	251,224,733	264,712,053	314,952,463	257,010,175	246,911,425	253,680,542	279,751,000
歳出合計		556,310,210	591,250,490	611,114,496	551,468,097	539,918,913	584,273,026	561,618,000
	①一般職給	436,327,476	432,240,834	435,419,791	433,581,648	418,798,765	411,884,817	436,822,000
	②大学管理運営事業	81,962,547	81,971,330	85,416,966	85,099,170	85,214,101	90,504,584	90,888,000
	③図書館管理運営事業	10,936,070	10,727,457	10,918,489	10,372,135	11,140,792	13,864,018	12,483,000
	④地域貢献推進事業	1,250,684	1,266,010	1,482,830	1,102,125	765,312	1,020,967	1,185,000
	⑤地域問題研究事業	2,341,598	2,307,389	2,361,986	2,355,300	2,393,756	2,436,758	2,426,000
	⑥教育研究関係事業	12,927,675	12,885,876	13,286,855	12,912,875	12,981,364	11,752,205	12,640,000
	⑦施設維持補修事業	10,564,160	49,851,594	62,227,579	6,044,844	8,624,823	52,809,677	5,174,000

(各年決算資料より作成 2018年度は予算額)

表28 教授会開催状況（2017年度）

開催 月日	定例・臨 時の別	出席数 (人)	欠席数 (人)	審議事項
4/20	定例	27	2	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 退学願について</li> <li>2 既修得単位の認定について</li> <li>3 平成29年度各種委員会委員(案)について</li> <li>4 ■■■■■の休職について</li> <li>5 附属図書館におけるキャリア支援関連図書の廃棄に関する内規(案)について</li> <li>6 入試主出題者の決定について</li> <li>7 競争的資金の間接経費の執行に係る指針(案)について</li> <li>8 三重短期大学教員評価委員会規程(案)について</li> </ol>
5/18	定例	26	3	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 退学願について</li> <li>2 法経科専任教員の公募について</li> <li>3 生活科学科専任教員の公募について</li> </ol>
6/15	臨時	26	3	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生活科学科教員人事について</li> <li>2 研究倫理委員会の委員の承認について</li> </ol>
6/22	定例	27	2	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 退学願について</li> <li>2 図書館利用規程の一部変更について</li> <li>3 観光ガイドの廃止について</li> <li>4 現行法規紙資料の廃棄について</li> <li>5 非常勤講師の採用について</li> <li>6 ■■■■■の休職について</li> </ol>
7/20	定例	27	2	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 休・退学願について</li> <li>2 生活科学科教員公募(2次選考)について</li> <li>3 非常勤講師の採用について</li> </ol>
9/13	臨時	25	4	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 退学願について</li> <li>2 平成29年度9月卒業判定について</li> <li>3 平成30年度入学式の日程について</li> <li>4 生活科学科教員公募(第1次選考)について</li> <li>5 非常勤講師の採用について</li> <li>6 教育職員免許法・同施行規則の改正に伴う栄養教諭課程廃止について</li> <li>7 三重短期大学発展計画委員会規程の改正について</li> <li>8 ■■■■■の休職願について</li> <li>9 ■■■■■の休職願について</li> </ol>
9/28	臨時	27	2	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 平成30年度関連分野特別選抜試験合否判定について</li> <li>2 退学願について</li> <li>3 教員評価について</li> </ol>
10/19	定例	27	3	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 退学願について</li> <li>2 生活科学科教員公募(2次選考)について</li> <li>3 生活科学科非常勤講師の採用について</li> <li>4 ■■■■■の割愛について</li> <li>5 法経科専任教員の公募について</li> <li>6 法経科専任教員公募(第1次選考)について</li> </ol>
11/16	定例	27	3	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 退学願について</li> <li>2 平成30年度開設講座表について</li> <li>3 法経科教員公募(2次選考)について</li> <li>4 法経科非常勤講師の採用について</li> <li>5 ■■■■■の割愛について</li> <li>6 学則の改正について</li> <li>7 在外研修の承認について</li> </ol>

11/26	臨時	27	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 平成30年度推薦入学者及び社会人特別選抜入学試験の合否判定について</li> <li>2 法経科専任教員の公募について</li> </ul>
12/21	定例	27	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 休学願について</li> <li>2 平成30年度開設講座表及び時間割について</li> <li>3 非常勤講師の採用について</li> <li>4 ■■■■■の休職願について</li> </ul>
1/18	定例	26	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 三重短期大学学生懲戒規程(案)について</li> <li>2 ■■■■■の割愛について</li> <li>3 非常勤講師の採用について</li> <li>4 平成30年度開設講座表・時間割について</li> <li>5 平成30年度行事日程について</li> <li>6 ■■■■■の休職願について</li> </ul>
2/8	臨時	26	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 法経科第1部、生活科学科一般入試合否判定について</li> <li>2 専任教員の昇任について</li> <li>3 法経科教員公募(1次選考)について</li> </ul>
2/14	臨時	24	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 退学願について</li> <li>2 平成30年度開設講座表、時間割について</li> <li>3 法経科教員公募(1次選考)について</li> </ul>
2/23	臨時	25	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 法経科第1部、生活科学科大学入試センター選抜試験合否判定について</li> <li>2 退学願について</li> <li>3 法経科経済原論担当教員公募(2次選考)について</li> <li>4 法経科民法担当教員公募(2次選考)について</li> <li>5 非常勤講師の資格変更(昇任)について</li> </ul>
3/1	臨時	25	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 平成29年度卒業判定について</li> <li>2 平成29年度栄養士免許取得要件の判定について</li> <li>3 平成29年度教員免許取得要件の判定について</li> </ul>
3/12	臨時	24	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 平成30年度法経科第2部(一般、社会人)及びセンター試験利用(Ⅱ期)入試合否判定について</li> <li>2 平成30年度開設講座表及び時間割について</li> <li>3 研究データの保存・管理・開示の方法に関するガイドラインについて</li> <li>4 法経科転部希望者の選考結果について</li> <li>5 その他(ハラスメント事実調査委員会委員の交代について)</li> </ul> <p>※ 教授会終了後、研究倫理委員会と競争的資金等不正防止委員会が合同で、全教員を対象に研修会を実施</p>
3/23	臨時	20	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 退学願について</li> <li>2 平成30年度キャリア支援方針(案)について</li> <li>3 三重短期大学教養教育委員会規程について</li> <li>4 名誉教授の承認について</li> <li>5 教員資格審査委員会委員の改選について</li> </ul>

三重短期大学教員研究・教育業績（2017年度）

所属：法経科		職名：教授	氏名：竹添 敦子
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：山本周五郎研究、文学とエンターテインメントの接点に関する研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他	「守るということ」（劇団前進座公演『柳橋物語』パンフレット、2017年8月）、「三十六から周五郎へ」（神奈川近代文学館『没後50年 山本周五郎展』図録、2017年9月）		
学会等報告			
共同研究 助成研究			
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：「文学Ⅰ」（共通・昼、前期、2）、「文学Ⅰ」（共通・夜、前期、2）、「文学Ⅱ」（共通・昼、後期、2）、「文学Ⅱ」（共通・夜、後期、2）、「独語Ⅰ」（基礎・昼、通年、2）、「独語Ⅰ」（基礎・夜、通年、2）、「比較文化論」（共通・昼、前期、2）、「比較文化論」（共通・夜、前期、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	三重短期大学文学同好会（文学部）顧問、三重短期大学バレーボール同好会顧問		
学内教育活動 （その他）	四年制大学への編入を希望する学生に、論文の書き方指導、面接指導を個別に実施した。		
教育上の工夫	<p><b>文学Ⅰ</b> 昼も夜も大教室、大人数であったが、概ね満足ゆく講義であった。主人公が学生とほぼ同年齢であったこと、また、3つの作品がそれぞれ個人的で、とても同じ作家によるものとは思えなかったことも大きい。一部映像を使用したところ、思わぬ発見もあったようで、理解の促進に役立った。私語についてはその都度注意したので、それでもやめない場合は学生の責任であると感じている学生が多かったようだ。「本を読むことが好きになった」「一生読書から離れないと思う」といった声は大変嬉しかった。毎回講義の最後にプリント提出を促すが、しっかり意見を書いてくれたこともこちらの励みとなった。</p>		
	<p><b>文学Ⅱ</b> 講義開始直前になってテキストが揃わず、急遽作品を変更せざるを得なかった。早めに対処できたので学生には迷惑をかけずに済んだが、それを受け入れてくれてありがたかった。新しいテキストは登場人物に共感を寄せることができたようで、総じて好評だった。学生の受講態度が極めて良く、そのことも講義の進行にとってはありがたいことだった。毎回、講義の最後にテーマに即した詩を選んで意見を書いてもらうが、講義内容の補完にも役だったはずである。それを察知して、講義と詩、両方についてしっかりした文章を提出する学生がいた。この作業を通じて確実に表現力が伸びたはずである。「今後の人生をどう歩むか、考えるきっかけになった」「これまで不得手だと思っていた読書が好きになった」という意見、「対象の作家の他の作品を読みたいと思えるほどに、作品に夢中になった」といった意見があった。人生の楽しみとしてこれからは読書にいそいそでもらえると、この講義の目的は達成できたということになるのだろう。</p>		
	<p><b>独語Ⅰ</b>（昼）適正な受講生数で特に問題なく講義ができた。習得してもらいたい項目をこなすため、音声については毎回使用したが、映像にあまり時間を割くことができなかった。30年近く本学で教えてきたが、近年は外国語が不得手な学生が多くなったという印象である。課題を出し、期末試験のレベルを大幅ダウンしたが、それでもなかなか満足のゆく成績がとれない者もいた。当初からの苦手意識を克服させることができなかった点が少々心残りである。</p>		
	<p>（夜）全員非常に熱心で、講義がやりやすかった。きちんと復習もしており、意欲的な学生が多い。成績もきわめて良好であった。分からないことを講義中に解決しようという意思も見え、学生の意欲によって講義が支えられていたと感じる。</p> <p><b>比較文化論</b> 昼は人数が膨大、夜は少なめだったが、講義内容に変更は加えなかった。講義はレジュメ1枚を守っている。多すぎると学生はとたんに興味を失うし、資料があるだけで勉強したような錯覚に陥るからである。むしろ、興味を持ってもらえばそこから自分で調べてもらえるので、それを重視した。講義の最後に流す映像は内容確認と発見のためのものだが、学生はしっかりレポートにまとめてくれた。映像を通じて関心を抱いたテーマを最終レポートにまとめる者も多かった。自ら調べるといふきっかけづくりとして役だったようである。</p>		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本独文学会、阪神ドイツ文学会、三重文学研究会、りべるたすの会、ゲルマニスティネンの会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	出前講義（津市村主公民館）「文学に描かれた私たちの町」2017年7月26日、出前講義（四日市市白寿会）「文学に描かれた私たちの町」2017年7月26日、出前講義（松阪市尊の会）「時代小説は庶民をどう描いているか」2017年11月1日、出前講義（川越町あいあいセンター）「時代小説は庶民をどう描いているか」2018年3月14日		
学外審議会委員等	りべるたすの会『りべるたす』編集委員		
学外講演会講師等	津演劇鑑賞会「『フル・サークル』を観る前に」2017年4月10日、津演劇鑑賞会「『蠟燭の灯、太陽の光』を観る前に」、2017年6月7日、津演劇鑑賞会「『柳橋物語』を観る前に」2017年8月1日、津演劇鑑賞会「『検察官』を楽しむために」2017年10月6日、津演劇鑑賞会「『女の一生』を観る前に」、2017年12月6日、津図書館文学講座「最近の直木賞作品について」2018年2月3日、津演劇鑑賞会「『もやしの唄』を楽しむために」2018年2月9日		
その他の社会活動	三重県ユニセフ協会評議員、津演劇鑑賞会幹事		
他大学非常勤講師	放送大学三重学習センター		
3 一言アピール			
ライフワークは周五郎作品の定本確定です。周五郎文学のすばらしさを次代に伝えるため、基礎資料づくりに専念します。			

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2017年度）

所属：法経科	職名：教授	氏名：立石 芳夫
<b>I 研究活動</b>		
1 研究課題：地方制度、地方自治制度		
2 研究活動実績		
著書		
論文		
その他		
学会等報告		
共同研究		
助成研究		
<b>II 教育活動</b>		
1 担当科目：行政学（食栄、生活、法Ⅰ、昼、後期、4）、行政学（法Ⅱ、夜、前期、4）、地方政治論（法Ⅰ、昼、前期、4）、自治体行政特論（共通、昼、前期、2）、演習（法Ⅰ、昼、通年、4）		
2 教育活動実績		
課外活動指導		
学内教育活動 (その他)	クラス担任、オフィスアワー、編入学指導など	
教育上の工夫	「行政学」（昼）日々の政治報道の内容を織り交ぜて工夫を重ねている。また、最も平易な部類のテキストを使用している。	
	「行政学」（夜）日々の政治報道の内容を織り交ぜて工夫を重ねている。また、最も平易な部類のテキストを使用している。	
	「地方政治論」日々の政治報道の内容を織り交ぜて工夫を重ねている。テキストについてもできるだけ平易なものを選んでいく。	
	「自治体行政特論」コーディネートして関与しているため、記載事項特になし。	
	「演習」受講生の学力を考慮して、より基礎的な学習計画を心掛けている。	
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>		
1 所属学会：日本政治学会、日本行政学会、日本地方自治学会、日本科学者会議、東海自治体問題研究所		
2 社会活動実績		
地域連携事業		
学外審議会委員等	日本科学者会議幹事	
学外講演会講師等		
その他の社会活動		
他大学非常勤講師		
3 一言アピール		
地方分権改革の到達点を踏まえつつ、地方自治制度の現状と課題を考察していくことを意識している。		

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2017年度）

所属：法経科	職名：教授	氏名：村井 美代子
<b>I 研究活動</b>		
1 研究課題：19世紀イギリス・ロマン派の詩		
2 研究活動実績		
著書		
論文		
その他		
学会等報告		
共同研究 助成研究		
<b>II 教育活動</b>		
1 担当科目：「英語Ⅰ」（基礎、昼2クラス、通年、2）、「英語Ⅱ」（基礎、夜1クラス、通年、2）、「英語講読」（共通、昼1クラス、通年、2）、「英語講読」（共通、夜1クラス、通年、2）、「キャリア形成セミナー」（共通、昼1クラス、前期、2）		
2 教育活動実績		
課外活動指導	ソフトテニス部顧問、就活サークル顧問	
学内教育活動 (その他)	四年制大学への編入学を希望する学生に、学習方法や面接練習などの指導を個別に行った。 TOEICや英検受験予定学生に、学習方法などの指導を個別に行った。	
教育上の工夫	(英語講読・昼) 全体的に非常に真面目で私語もなく、指名した際の授業準備も良くできていた。「自主的な学習」については、「積極的に行った」と「少し行った」を合わせると7割以上の学生が自主的に学習を行っている。ただし、学籍番号順に指名しているため、発表が近づくより丁寧に自主学習を行う傾向がある。課題の提出率も高かった。例年のことだが、テキストの進み具合が遅く、後期末にはシラバスに記載した予定進捗度と開きが出てしまった点を反省している。今後はより慎重に年間計画を立てたい。テキスト内容がやや難解かと思っていたが、「教材」についての評価には大きく現れていなかった。	
	(英語講読・夜間) 例年に比べ、昼間部の「英語講読」とのクラス人数差が少なくなり、テキストの進捗度や指名する頻度にほとんど差が無くなった点は良かった。全体的に非常に真面目で、指名した際の授業準備も良く出来ていた。「自主的な学習」については、「積極的に行った」と「少し行った」を合わせると、約8割の学生が自主的に学習を行っている。課題の提出率も高かった。例年のことだが、テキストの進み具合が遅く、後期末にはシラバス記載の予定進捗度と大きく開きが出てしまった点を反省している。今後は年間の学習計画をより慎重に行いたい。	
	(英語Ⅰ・昼) 例年1コマ目の授業は後期になると遅刻する学生が多くなりがちだったが、今年度はほとんどいなかった。私語もなく、真面目なクラスだった。「自主的な学習」については、「積極的に行った」と「少し行った」を合わせると6割弱で、他のクラスよりもやや低くなっているが、指名した時の授業準備は良く出来ていた。使用したテキストは、章によって内容の読みやすさにばらつきがあり、テキストの難易度の感じ方が気になっていたが、特に「教材」についての評価には現れていなかった。	
	(英語Ⅰ・夜間) クラス全体の出席率は高く、授業中に私語もなく、真面目なクラスで、「自主的な学習」については、「積極的に行った」と「少し行った」を合わせると7割以上の学生が自主的に学習を行っている。学籍番号順に指名しているため、発表が近づくより丁寧に自主学習を行う傾向にはあったようだが、指名した際の授業準備も良く出来ていた。課題の提出率も高かった。学生の英語学習歴に差異があり、テキストの難易度の感じ方が気になっていたが、「教材」についての評価には現れていなかった。	
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>		
1 所属学会：日本英文学会、イギリス・ロマン派学会		
2 社会活動実績		
地域連携事業		
学外審議会委員等	津市図書館協議会委員、三重県情報公開審査会委員	
学外講演会講師等		
その他の社会活動	三重県学生就職連絡協議会委員長、若年者地域連携事業の実施に係る協議会委員、三重労働局新卒者等就職・採用応援本部員	
他大学非常勤講師	放送大学非常勤講師	
3 一言アピール		
小学生の頃、石井桃子訳の『くまのプーさん』を通してイギリスが大好きになったことが、その後の英文学研究の原点です。母語以外の言語で作品を読み解く楽しさを一緒に味わえることが理想です。		

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2017年度）

所属：法経科	職名：教授	氏名：楠本 孝
<b>I 研究活動</b>		
1 研究課題：ヘイトスピーチ、外国人法制、精神障害者の犯罪の研究		
2 研究活動実績		
著書		
論文	「ヘイトスピーチ対策としての公共施設利用制限について」地研年報第22号（2017年9月）1～25頁	
その他		
学会等報告		
共同研究 助成研究	助成研究：2017年度地域問題研究所奨励研究員「大規模災害時に日本人被災者と外国人被災者が協働して避難所を運営するための基礎的条件に関する研究」	
<b>II 教育活動</b>		
1 担当科目：刑法（法Ⅰ、昼、前期、4）、刑法（法Ⅱ、夜、前期、4）、刑事政策（法Ⅰ、昼、後期、2）、演習（法Ⅰ、昼、通年）、社会科学演習（法Ⅱ、夜、通年、4）、法学基礎演習（法Ⅰ、昼、後期、2）		
2 教育活動実績		
課外活動指導	野球部顧問	
学内教育活動 (その他)	法経科第1部及び第2部のゼミ生を引率して滋賀刑務所見学（2017年9月）	
教育上の工夫	刑法（法Ⅰ）は、講義期間内に予定した項目を講義しきれない。時間を増やせない以上は、一項目にかかる時間数を削るほかに、それでは味気のない講義になってしまうおそれがある。教材を工夫して細部の説明を省く方法を考えている。	
	刑法（法Ⅱ）は、少人数のため講義はしやすいが、学生の理解を高めるために、前回講義の復習から入りにしているが、そのため進路は遅くなり、やはり講義期間内に予定した項目を講義しきれない。1部と同様、教材を工夫して細部の説明を省く方法を考えている。	
	刑事政策（法Ⅰ）は、予定の講義項目をほぼ講義できたが、死刑や少年法は学生の関心が高い問題なので、学生との意見交換の時間を増やしたい。	
	演習は、法学基礎演習で基礎学力を身につけたゼミ生に、自ら設定したテーマについて研究し、その成果をゼミ論文（15,000字）にまとめることを求めた。全員がゼミ論を完成させ、ゼミ論集を刊行できた。	
	社会科学演習は、基礎演習を経ない2部学生が対象になるので、指導が難しいが、少人数であるので丁寧な指導ができる。一部のゼミ生と同じように、ゼミ論文の作成を求め、全員が論文を完成させ、ゼミ論集を刊行できた。	
	法学基礎演習は、山口厚の「刑法入門」（岩波新書）をテキストにして、これをゼミ生が分担して精読し、内容の検討を全員で行うことで、基礎学力を身につけると同時に、プレゼンテーションの能力や集団討議の能力の獲得を目指し、成果を得た。	
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>		
1 所属学会：日本刑法学会、日本犯罪社会学会		
2 社会活動実績		
地域連携事業	三重短期大学政策研究研修「大規模災害時に外国人被災者と協働して避難所を運営するための基礎的条件に関する研究」	
学外審議会委員等	津市青少年問題協議会委員、津市人権施策審議会委員	
学外講演会講師等	出前講義「外国人との共生について」（2017年9月、亀山市）、「少年非行の現在」（2018年1月、鈴鹿市）	
その他の社会活動		
他大学非常勤講師		
3 一言アピール		
排除型社会から包摂型社会への移行、非寛容社会から寛容社会への移行はどのようにすれば可能かについて考えています。		

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2017年度）

所属：法経科		職名：教授	氏名：三宅 裕一郎
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：アメリカ合衆国における軍事に対する立憲的統制			
2 研究活動実績			
著書	阪口正二郎他編『憲法の思想と発展—浦田一郎先生古稀記念—』（信山社）（「アメリカ合衆国による『標的殺害』と自衛権」を掲載）		
論文	「トランプ政権と日米安保—アメリカにおける軍事に対する立憲的統制の可能性—」『日本の科学者』52巻12号		
その他	「原審裁判所による検察庁への映像媒体提出命令が取り消された事例」法学セミナー増刊『新・判例解説Watch』		
学会等報告			
共同研究 助成研究			
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：「日本国憲法」（法Ⅰ、通年、4）、「日本国憲法」（法Ⅱ、前期、4）、「憲法訴訟論」（法Ⅰ、前期、2）、「演習」（法Ⅰ、通年、4）、「社会科学演習」（法Ⅱ、通年、4）、「法学基礎演習」（法Ⅰ、後期、2）、「日本国憲法Ⅰ」（食栄、生活、前期、2）、「日本国憲法Ⅱ」（食栄、生活、後期、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）			
教育上の工夫	「日本国憲法」（法Ⅰ）講義の冒頭で、その日のテーマにかかわる例題を設定し考える時間を与えた後で、数名の学生に口頭で答えてもらうようにしている。それを通じて、講義のねらいがどこにあるのかを、あらかじめ意識してもらうように心がけている。		
	「日本国憲法」（法Ⅱ）講義の冒頭で、その日のテーマにかかわる例題を設定し考える時間を与えた後で、数名の学生に口頭で答えてもらうようにしている。それを通じて、講義のねらいがどこにあるのかを、あらかじめ意識してもらうように心がけている。		
	「憲法訴訟論」（法Ⅰ）関連する具体的なケースを例題として、そこに含まれる憲法上の論点を整理し、裁判所がどのような判断枠組みを用いて結論を出したのかというプロセスを追った上で、裁判所の判断が妥当であったかどうかを最終的に検討する（場合によっては、レポートにまとめてもらう）という形をとっている。		
	「演習」（法Ⅰ）前期は憲法訴訟を扱った簡単なテキストを用いて、それを元にゼミ生に報告してもらい、まずは資料の読み込みとプレゼンのスキルを発展させるように努めている。そして、後期はそのスキルを活かして、各自が関心のある研究テーマを設定し、卒業論文の報告と執筆に力を注いでもらうようにしている。		
	「社会科学演習」（法Ⅱ）前期は憲法訴訟を扱った簡単なテキストを用いて、それを元にゼミ生に報告してもらい、まずは資料の読み込みとプレゼンのスキルを発展させるように努めている。そして、後期はそのスキルを活かして、各自が関心のある研究テーマを設定し、卒業論文の報告と執筆に力を注いでもらうようにしている。		
	「法学基礎演習」（法Ⅰ）憲法訴訟を扱った簡単なテキストを用いて、それを元にゼミ生に報告してもらい、まずは資料の読み込みとプレゼンのスキルを発展させるように努めている。		
	「日本国憲法Ⅰ」（食栄、生活）講義の冒頭で、その日のテーマにかかわる例題を設定し考える時間を与えた後で、数名の学生に口頭で答えてもらうようにしている。それを通じて、講義のねらいがどこにあるのかを、あらかじめ意識してもらうように心がけている。		
「日本国憲法Ⅱ」（食栄、生活）講義の冒頭で、その日のテーマにかかわる例題を設定し考える時間を与えた後で、数名の学生に口頭で答えてもらうようにしている。それを通じて、講義のねらいがどこにあるのかを、あらかじめ意識してもらうように心がけている。			
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：全国憲法研究会、憲法理論研究会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等			
学外講演会講師等	多数		
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	三重大学教育学部非常勤講師		
3 一言アピール			



三重短期大学教員研究・教育業績（2017年度）

所属：法経科		職名：教授	氏名：石原 洋介
I 研究活動			
1 研究課題：東アジアにおける金融・経済協力、自由貿易協定（FTA）とWTOルールの研究、世界の南北格差の解決に向けての研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：「金融論」（法Ⅰ、昼、後期、4単位）、「金融論」（法Ⅱ、夜、前期、4単位）、「国際経済論」（法Ⅰ、昼、前期、2単位）、「国際経済論」（法Ⅱ、夜、後期、2単位）、「演習」（法Ⅰ、昼、通年、4単位）、「社会科学演習」（法Ⅱ、夜、通年、4単位）、農林体験セミナー（共通、昼、集中、2単位）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	短大生協理事、サッカー部顧問、演劇鑑賞同好会顧問		
学内教育活動 (その他)	クラス担任、オフィスアワー、学外演習（日銀・東証見学）、卒論作成指導、編入学のための面接試験指導		
教育上の工夫	<p>法Ⅰ「金融論」（後期）：金融論は四年制大学の経済学部では三年次以降に配置されることが多いため、短大生には難解な金融理論の解説よりも、いわゆる金融リテラシー教育に重点をおいてカリキュラムを組んでいる。図や表を多用してわかりやすいレジュメ作成に努めている。</p> <p>法Ⅰ「国際経済論」（前期）：現在の新自由主義的グローバリゼーションがもたらした経済格差の拡大や国際金融の不安定化について理論、歴史、具体的事例、今後の課題と展望を学べるように、カリキュラム編成している。特に私の専門研究対象であるアジア経済を重点的にとりあげ、これまでの研究成果を生かした内容を教授するようにしている。</p> <p>法Ⅰ「演習」（通年）：金融論演習では学生の興味関心を喚起するため夏季休暇を利用して日本銀行、貨幣博物館、東京証券取引所の見学に行くこととしており、前期はそれに向けた準備として日本銀行の機能や役割について学ぶようにしている。また、後期は卒論指導（小論文コンクールで代替可）とともに、学生の興味関心に即したテーマを設定してゼミを行っている。</p> <p>法Ⅱ「金融論」（前期）：金融論は四年制大学の経済学部では三年次以降に配置されることが多いため、短大生には難解な金融理論の解説よりも、いわゆる金融リテラシー教育に重点をおいてカリキュラムを組んでいる。図や表を多用してわかりやすいレジュメ作成に努めている。</p> <p>法Ⅱ「国際経済論」（後期集中講義）：現在の新自由主義的グローバリゼーションがもたらした経済格差の拡大や国際金融の不安定化について理論、歴史、具体的事例、今後の課題と展望を学べるように、カリキュラム編成している。特に私の専門研究対象であるアジア経済を重点的にとりあげ、これまでの研究成果を生かした内容を教授するようにしている。</p> <p>法Ⅱ「社会科学演習」（通年）：社会科学演習では現代グローバリズムがもたらした諸矛盾を学び、どうすれば解決できるのかを学生とともに議論している。また、後期は学生の興味関心に即したテーマを設定してゼミ指導をしている。卒論指導（夏の小論文コンクールで代替可）や学園祭への参加も積極的に取り組んでいる。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本金融学会、経済理論学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	オープンカレッジ(2017.10.7)「TPPはなぜ不成立になったのか？」		
学外審議会委員等	三重県地方卸売市場運営協議会委員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動	日本科学者会議三重支部幹事、津市演劇鑑賞会代表幹事		
他大学非常勤講師	三重大学「国際金融論」（隔年後期2単位）		
3 一言アピール			
図書館長になり研究に割ける時間がほとんどなくなりました。大学運営や地域貢献活動で新たな挑戦をするのは大変ではありますが、楽しみもあり、やりがいを感じています。学生への教育指導だけは手を抜かないよう頑張りたいと思います。			

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2017年度）

所属：法経科		職名：教授	氏名：富田 仁
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：信託法の研究			
2 研究活動実績			
著書	「民法Ⅰ総則（補訂版）」2017年4月		
論文			
その他	書評「神田秀樹編著『中国信託法の研究』（2016年）日本加除出版」信託法研究42号		
学会等報告			
共同研究 助成研究			
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：民法Ⅰ（法Ⅰ、昼、前期、4）、民法Ⅰ（法Ⅱ、夜、前期、4）、民法Ⅲ（法Ⅰ、昼、後期、2）、法学基礎演習（法Ⅰ、昼、後期、2）、演習（法Ⅰ、昼、通年、4）、社会科学演習（法Ⅱ、夜、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	生活共同組合三重短期大学支部理事（2016年5月～）		
学内教育活動 （その他）	卒業論文の指導作成、クラス担任、オフィシアワー		
教育上の工夫	「民法Ⅰ」（昼）例年通り、講義では教科書にそって授業を進め、わからないところは出席表において質問をするように学生に促している。また、簡略化はされているが、判例を読むことで、民法の条文の解釈や、社会における位置づけを確認する授業方法を行なっている。		
	「民法Ⅰ」（夜）法Ⅰ同様に例年通り、講義では教科書にそって授業を進め、わからないところは出席表において質問をするように学生に促している。また、簡略化はされているが、判例を読むことで、民法の社会における位置づけを確認する授業方法を行なっている。		
	「民法Ⅲ」（昼）本年度は、教科書を使い授業を進めた。民法Ⅰ同様に、わからないところは出席表において質問をするように学生に促している。また、民法Ⅰ同様に簡単な判例を読むことで、民法の条文の解釈や、民法の理解を深める授業方法を行なっている。		
	「法学基礎演習」本年度は、ほとんどの学生が民法Ⅰを受講していたことから、昨年と異なり2人1組でレポートの発表を行った。発表中にわからなかった専門用語などを宿題として、次回の授業で報告してもらうなど、学生の熱心な姿勢が保たれた。		
	「演習」（昼）本年度は例年通りレポートの報告を行ってもらった。しかし、やってこない者やレポートの形になっていないものなど、レポートのレベルに達していない者の発表が散見された。また、当初の計画通り、後期に入り授業で卒業論文の中間報告などを行ってもらったが、やはりやってこない者や杜撰なものなどがあり、結果的に卒業論文の作成期間をすぎてもできていないといった状況であった。		
	「社会科学演習」（夜）本年度は学生の希望により、民法に関する事件を輪読してもらい、判決に対して議論をたかかわせる形式で授業を行なった。わからないところは、こちらで解説を加えた。卒業論文作成に当たり、数人が当初の計画を無視し、卒業論文の作成作業を行なわなかった。このため、その後個別の指導を行いながら、卒業論文を期日までに完成させたが、十分な内容となっていないところがある。		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本私法学会、信託法学会、不動産学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	桑名市情報公開・個人情報保護審査会委員、津地方裁判所委員会委員、桑名市行政不服審査会委員、三重県収用委員会委員、津市家庭裁判所委員会委員		
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	名古屋市立大学人文社会学部（民法1、民法2）		
3 一言アピール 投資等に使われる信託を民法的視点から研究しています。			

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2017年度）

所属：法経科		職名：准教授	氏名：藤枝 律子
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：行政活動に対する市民・住民の参加			
2 研究活動実績			
著書			
論文	「学校事故における教員の個人責任に対する求償権の行使と住民訴訟」三重法経150号（2018年3月20日）		
その他	書評 白藤博行『地方自治法への招待』（住民と自治2017年10月号）		
学会等報告	地方自治研究会報告「地方創生政策と補助金」2017年5月20日、地方自治研究会報告「市民参加条例の比較検討」2017年9月30日、行政判例研究会報告「求償権行使懈怠違法確認等請求事件」2017年12月2日、地方自治研究会報告「高知県大川村における『村民総会』設置の検討」2018年1月6日		
共同研究			
助成研究			
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：「行政法」（法Ⅰ、昼、前期、4）、「行政法」（法Ⅱ、夜、後期、4）、「地方自治法」（法Ⅰ、昼、後期、2）、「演習」（法Ⅰ、昼、通年、4）、「法学基礎演習」（法Ⅰ、昼、後期、2）、社会科学演習（法Ⅱ、夜、通年、4）、「法学入門」（法Ⅰ、昼、前期、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	ウォーキング同好会顧問		
学内教育活動 (その他)	クラス担任、オフィスアワー(金曜日16:10~17:40)、学外演習(裁判傍聴)、卒論作成指導、編入学のための面接試験指導		
教育上の工夫	「行政法Ⅰ部」学生の興味を引くように、テレビのドキュメント番組等を録画したDVDを観る機会を作るようにして、講義に少し変化をもたせるよう工夫しています。少しでも社会に対して興味・関心を持てるよう、できるだけ最近のニュースを素材にして授業を組み立てることを心がけているつもりです。今後も、取り上げたテーマを、多くの学生が身近な問題として考えられるような講義になるように努力をしたいと思います。		
	「行政法Ⅱ部」判例だけでなく、新聞記事やテレビのドキュメント番組等の録画を利用して、学生たちの興味を引くように講義に変化を持たせるよう工夫しています。少しでも社会に対して興味・関心を持てるよう、できるだけ新しい判例や出来事を素材にして授業を組み立てることを心がけているつもりです。今後も、取り上げたテーマを、多くの学生が身近な問題として考えられるような講義になるように努力をしたいと思います。		
	「地方自治法」ドキュメンタリー等の視覚教材や新聞の切り抜き等を活用して、地方自治に関心を持ってもらえるように工夫をしています。少しでも自分の住んでいる「まち」に対して興味・関心を持てるよう、できるだけ最近のニュースを素材にして授業を組み立てることを心がけています。授業中には、出来るだけこちらから学生からの発言を促すような問いかけをする等、取り上げたテーマを、多くの学生が身近な問題として考えられるように講義を進めていきたいと思っています。		
	「演習」それぞれの学生が、卒論のテーマとして、行政判例の一つ選択します。自分が選んだ判例に対する裁判官役を務め、他のゼミ生に原告、被告に分かれて、それぞれの立場から意見を出してもらい、その意見を参考にしながら、卒論を執筆するようにしています。		
	「法学基礎演習」ゼミでは、裁判傍聴をして、実際の裁判がどのように行われているか先ず、知ることから始めています。行政判例を、原告、被告、裁判官に分かれてディベートをして、それぞれの視点から判例をみることを学ぶようにしています。		
	「社会科学演習」前期の前半では、示した判例のディベートをしてもらい、意見を出し合うことに慣れてきた時点で、それぞれの学生が、卒論のテーマとして、行政判例の一つ選択します。自分が選んだ判例に対する裁判官役を務め、他のゼミ生に原告、被告に分かれて、それぞれの立場から意見を出してもらい、その意見を参考にしながら、卒論を執筆するようにしています。		
「法学入門」3回担当。2回は、行政事件訴訟法について、最終回は国家補償について。時間が限られている中で、できるだけ、具体的な事件と判例を挙げて説明することによって、行政救済について理解を深めることができるように努力しました。			
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本教育法学会、日本公法学会、日本地方自治学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	桑名市情報公開・個人情報保護審査会委員、津市建築審査会委員、三重県取用委員会委員、三重県福祉サービス運営適正化委員会委員、津市いじめ問題対策連絡協議会委員、三重県行政不服審査会委員、鈴鹿市建築審査会委員 等		
学外講演会講師等	桑名市役所職員研修講師「行政法」担当(2017年9月)		
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
教育をはじめ、行政は我々にとって身近な存在であるにもかかわらず、遠くに感じられる存在でもあります。行政の活動に対してどのように市民・住民が関心を持ち、関わり、参加していけるか、その可能性を考えていきたいと思っています。			

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2017年度）

所属：法経科		職名：准教授	氏名：杉山 直
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：トヨタの労使関係			
2 研究活動実績			
著書	『安倍政権下のトヨタ自動車』税務経理協会、2018年（共著）		
論文			
その他	「自動車産業」大原社会問題研究所『2017年版日本労働年鑑』旬報社、2017年 「トヨタの技能系新賃金制度」大阪労災職業病対策連絡会『労働と健康』第263号、2017年 「トヨタの『働き方改革』——事務技術職を中心に——」三重短期大学地域問題研究所『地研通信』第128号、2018年		
学会等報告			
共同研究	地研研究「トヨタの労使関係の研究」		
助成研究			
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：経営学（法Ⅰ、昼、前期、4）、経営学（法Ⅱ、夜、後期、4）、人的資源管理論（法Ⅰ、昼、前期、2）、人的資源管理論（法Ⅱ、夜、後期、2）、演習（法Ⅰ、昼、通年、4）、社会科学演習（法Ⅱ、夜、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	卓球部顧問、バレー部顧問、ハンドボール部顧問		
学内教育活動 (その他)	クラス担任、オフィスアワー、卒業論文指導		
教育上の工夫	「経営学」（昼前期）：授業の要点を分りやすくするために、プリントの最後に授業のポイントを箇条書きで示してきた。また授業で質問の用紙を配布し、質問が出されたら、その都度、説明をしてきた。		
	「経営学」（夜後期）：授業の要点を分りやすくするために、プリントの最後に授業のポイントを箇条書きで示してきた。また授業で質問の用紙を配布し、質問が出されたら、その都度、説明をしてきた。		
	「人的資源管理論」（昼前期）授業の内容をより深くイメージできるように新聞に掲載された企業の事例をできるだけ多く使用してきた。また授業で質問の用紙を配布し、質問が出されたら、その都度、説明をしてきた。		
	「人的資源管理論」（夜後期）授業の内容をより深くイメージできるように新聞に掲載された企業の事例をできるだけ多く使用してきた。また授業で質問の用紙を配布し、質問が出されたら、その都度、説明をしてきた。		
	「演習」テキストの報告の担当は短くし、2週間に1回は報告するようにしてきた。また産業技術記念館の見学とトヨタの工場見学を行い、トヨタの歴史や企業活動を学ぶようにしてきた。		
「社会科学演習」卒業論文の内容を充実させるために、報告開始の時期を早め、2週間に1回、報告するようにしてきた。			
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本労務学会、労務理論学会、日本労働社会学会、社会政策学会、北ヨーロッパ学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	三重県男女参画審議会審議委員、労務理論学会幹事		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	愛知大学「経営学概論Ⅰ」（2017年4月～9月）、愛知大学「経営学概論Ⅱ」（2017年9月～2017年3月）、同朋大学「経営学」（2017年9月から2018年3月）		
3 一言アピール			
トヨタ生産方式を支えるヒトの管理、特に、賃金制度及び賃金の格差構造について研究してきました。また、そうした制度や格差構造から労使関係に関心をいただき、近年は労使関係を中心に調べています。			

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2017年度）

所属：法経科	職名：准教授	氏名：田中 里美（2017年5月末より休職）
<b>I 研究活動</b>		
1 研究課題：会計制度と法人税制（課税の公平から見た会計の役割に関する研究）、内部留保の経営分析、不正ファイナンスと財務諸表監査		
2 研究活動実績		
著書	単著『会計制度と法人税制—課税の公平から見た会計の役割についての研究』唯学書房、2017年4月。	
論文		
その他		
学会等報告		
共同研究 助成研究		
<b>II 教育活動</b>		
1 担当科目：会計学（法Ⅰ、昼、前期、4）、税務会計論（法Ⅰ、昼、前期、2）、演習（法Ⅰ、昼、前期、4）、社会科学演習（法Ⅱ、夜、前期、4）		
2 教育活動実績		
課外活動指導	華道部顧問	
学内教育活動 （その他）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経商コースの1年生、2部の1年生のクラス担任を受け持った。</li> <li>・毎週90分のオフィスアワーを実施した。</li> </ul>	
教育上の工夫	「会計学」（法Ⅰ）：会計学の歴史と理論、近年の動向を中心に講義を行った。初学者でも理解できるように、専門用語の説明を丁寧に行うよう、心がけた。	
	「税務会計論」（法Ⅰ）：租税の基本的な概念と法人税法の計算の仕方、所得税法の計算の仕方について講義を行った。	
	「演習」（法Ⅰ）：各人が1本の論文を作成することを目標にゼミの講義を進めた。	
	「社会科学演習」（法Ⅱ）：各人が1本の論文を作成することを目標にゼミの講義を進めた。	
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>		
1 所属学会：日本会計研究学会、税務会計研究学会、会計理論学会		
2 社会活動実績		
地域連携事業		
学外審議会委員等		
学外講演会講師等		
その他の社会活動		
他大学非常勤講師		
3 一言アピール		
制度（会計、法人税、監査）の社会的意味を考察し、その制度下での社会的実態を明らかにします。		

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2017年度）

所属：法経科	職名：准教授	氏名：金江 亮
<b>I 研究活動</b>		
1 研究課題：最適成長論、数理マルクス経済学		
2 研究活動実績		
著書		
論文	最適成長モデルにおける格差（三重短期大学地研年報 第22号）	
その他		
学会等報告	「非代替定理と労働価値説」（慶応大学経済学会、1月）、「非代替定理と労働価値説」（基礎経済科学研究所、高知県公立大学、3月）、「GDPの問題点・価値方程式の縮約表現」（基礎経済科学研究所第41回研究大会、京都府立大学、8月）	
共同研究 助成研究		
<b>II 教育活動</b>		
1 担当科目：「経済原論」（食栄・生活・法Ⅰ、昼、前期、4）、「経済原論」（法Ⅱ、夜、前期、4）、「経済学史」（法Ⅰ、昼、後期、2）、「演習」（法Ⅰ、昼、通年、4）、「社会科学演習」（法Ⅱ、夜、通年、4）		
2 教育活動実績		
課外活動指導	将棋囲碁部顧問	
学内教育活動 (その他)	第1部「演習」、第2部「社会科学演習」のゼミ生による卒業論文集CD作成	
教育上の工夫	「経済原論」（1部）グラフや図表が多い分かりやすいテキストを使い、板書しています。テキストに付け加えて、学生に分かりやすい具体例を入れるようにしています。	
	「経済原論」（2部）グラフや図表が多い分かりやすいテキストを使い、板書しています。テキストに付け加えて、学生に分かりやすい具体例を入れるようにしています。	
	「経済学史」グラフや図表を多く用いています。また、前期の経済原論の内容ともつなげて紹介し、復習になるように、違った視点から学べるように工夫しています。	
	「演習」「人口と日本経済」（吉川洋・著）「池上彰の経済のニュースが面白いほどわかる本」（池上彰・著）をテキストに、少子高齢化の下で日本経済が成長できるのか、財政は大丈夫なのか、将来の日本や世界経済について学生と共に取り組んでいます。	
	「社会科学演習」「人口と日本経済」（吉川洋・著）「池上彰の経済のニュースが面白いほどわかる本」（池上彰・著）をテキストに、少子高齢化の下で日本経済が成長できるのか、財政は大丈夫なのか、将来の日本や世界経済について学生と共に取り組んでいます。	
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>		
1 所属学会：経済理論学会、日本経済学会、基礎経済科学研究所、世界政治経済学会		
2 社会活動実績		
地域連携事業	「人口成長・格差・少子高齢化」三重アカデミックセミナー(8月1日)担当	
学外審議会委員等		
学外講演会講師等		
その他の社会活動		
他大学非常勤講師		
3 一言アピール		
研究では数理的な理論分析、教育では分かりやすく楽しく、を心がけています。		

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2017年度）

所属：法経科	職名：准教授	氏名：大畑 智史
<b>I 研究活動</b>		
1 研究課題：支出税構想の活用方法の検討、最適課税論の観点からの租税分析、J.S.ミルの租税論分析		
2 研究活動実績		
著書		
論文	「支出税と勤労意欲：ICT化の影響」（三重短期大学地域問題研究所『地研通信』127、2017年）、「経済成長と支出税」（国際文化政策研究教育学会ワーキングペーパー、2017年）	
その他		
学会等報告	「租税分野におけるマイナンバー制度」（2017年度地研研究交流集会報告、2018年）	
共同研究 助成研究		
<b>II 教育活動</b>		
1 担当科目：地方財政論（法Ⅰ、昼、前期、2）、地方財政論（法Ⅱ、夜、前期、2）、財政学（法Ⅰ、昼、後期、4）、財政学（法Ⅱ、夜、後期、4）、演習（法Ⅰ、昼、通年、4）、社会科学演習（法Ⅱ、夜、通年、4）		
2 教育活動実績		
課外活動指導		
学内教育活動 （その他）	1年クラス対象（対象 1部・2部）：主として、進路と授業履修の面談、2年演習履修生対象（対象 1部・2部）：主として、進路と授業履修の面談、2年演習学外学習（対象 1部・2部）：2017年度は伊賀市方面（9月実施、自由参加）、2年演習（対象 1部・2部）：卒業論文作成関係（校正会実施（ほぼ全員参加））	
教育上の工夫	<p>「地方財政論」（昼） できるだけ各論点（地方債、公会計、他）の重要な点を、関係各種データを参照したりしながら明瞭に伝える。このために、各回において、基本的に、中心となる資料（その回の内容の骨格がよくわかるもの）を提示し、これを、その関係の、板書や各種データや具体的事例などの内容で補足する、といった形で授業を進めている。また、地方財政論の全体像がつかめるよう、各回の内容の関連性へも配慮している。その他、学生の授業内容理解向上のため、毎回の内容が多くなりすぎないように配慮する、授業内容について学生自身で考えてもらう機会をできるだけ設ける、各回の最初数分程度は前回の簡潔なレビューをする、などの取組をしている。</p> <p>「地方財政論」（夜） 基本的な工夫は「地方財政論」（昼）と同じだが、社会人の受講生が複数居られる場合には、そのご経験が活かされた授業内容へのコメントが多く、これは、受講生全員、自身にとって非常に有益で、適宜、授業中に当該コメントを紹介している（地方財政論（昼）でも紹介）。</p> <p>「財政学」（昼） 基本的工夫は、「地方財政論」（昼）と同様である。 &lt;財政学独自の工夫&gt; ・中間テストを入れ、受講生の側、自身の側で、授業の効果を確かめる。 ・ミクロ経済学やマクロ経済学といった視点（無差別曲線を使用、他）からの説明箇所が地方財政論の場合よりも多いが、そうした点は出てくるたびにできるだけそうした視点の内容を説明する。</p> <p>「財政学」（夜） 基本的な工夫は「財政学」（昼）と同じだが、社会人の受講生が複数居られる場合には、そのご経験が活かされた授業内容へのコメントが多く、これは、受講生全員、自身にとって非常に有益で、適宜、授業中に当該コメントを紹介している（財政学（昼）でも紹介）。</p> <p>「演習」（昼） 卒業研究ができるだけ深まるような議論を行っている。このために、受講生の関心のこちら側での把握、これと深く関係する資料の配布、2部の議論内容を知る機会の設定（卒業研究経過報告会、卒業研究最終報告会）、などの工夫を行っている。</p> <p>「社会科学演習」（夜） 基本的な工夫は「演習」（昼）と同様である。</p>	
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>		
1 所属学会：日本経済学会、日本租税理論学会、経済理論学会、基礎経済科学研究所、日本科学者会議、The World Association for Political Economy		
2 社会活動実績		
地域連携事業		
学外審議会委員等	基礎経済科学研究所『経済科学通信』編集局員、日本科学者会議三重支部幹事	
学外講演会講師等		
その他の社会活動		
他大学非常勤講師		
3 一言アピール		
支出税構想の活用でICT活用は非常に有意義だが、このような視点を考慮し、今後、支出税構想の活用方法をより具体的に分析していきます。		

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2017年度）

所属：法経科		職名：准教授	氏名：川崎 航史郎
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：医療・福祉政策への法的接近			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他	地域問題研究所通信129号「保育所持機児童問題から見る日本社会保障の問題」2018年3月 図書館通信「第2次安倍内閣の労働法改正の動向」		
学会等報告	医療福祉政策学会第1回大会報告「医療福祉政策への社会保障法からのアプローチ」2017年12月2日		
共同研究 助成研究			
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：担当科目：演習（法Ⅰ・昼・通年・4）、社会科学演習（法Ⅱ・夜・通年・4）、労働法（法Ⅰ・昼・後期・4）、労働法（法Ⅱ・夜・後期・4）、法学基礎演習（法Ⅰ・昼・後期・2）、社会保障法（法Ⅰ・昼・前期・2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	労働法受講生を想定して、さらに発展して学習したい希望者を集め、週に1回、自主ゼミを開講した。また、過労死遺族の講演や、貧困問題に対する地域の取り組みなどに関する講演会や学習会にゼミ生を引率して参加した。労基署や職安見学も行っている。		
教育上の工夫	演習（法Ⅰ・昼・通年・4）は、卒論執筆に向け、資料収集の仕方や、内容検討を行った。また、ゼミ生の関心のある問題を知るために、労働基準監督署や労働組合を訪問した。		
	社会科学演習（法2）は、労働法未受講者がいたため、基本知識の正確な習得に努めた。労働法学会講座を輪読し、章ごとに概要と論点、報告者の意見を報告させ、質疑応答を通じて、労働法の理解をすすめた。		
	労働法（法1）は、アルバイトの例などを示し、学生の身近な労働問題の帰結が可能となるように講義を進めた。予習、講義中の授業参加のための課題提示、復習、講義への質問を、コメントペーパーに項目ごとにまとめさせ、着実な講義の理解が進むように努めた。また、映像資料も活用した。講義は、受け身にならないように、グループディスカッションを導入し、受講生相互の会話による理解向上に努めた。		
	労働法（法2）は、社会人も多いため、積極的に労働問題の体験談を話してもらった。予習、講義中の授業参加のための課題提示、復習、講義への質問を、コメントペーパーに項目ごとにまとめさせ、着実な講義の理解が進むように努めた。また、映像資料も活用した。講義は、受け身にならないように、グループディスカッションを導入し、受講生相互の会話による理解向上に努めた。		
	法学基礎演習は、卒論執筆に向けて、どのような労働問題があるのかを知ることからはじめた。関心のある問題を複数提示させ、3人グループでテーマを決め報告を分担した。報告のためのレジメ作成方法や資料収集の手段なども講義した。		
社会保障法は、日本の生活問題や貧困者の生活困難をするために、映像資料を活用した。また、新聞資料を配布し、現在の社会保障が抱える課題の提示を行った。講義は、受け身にならないように、グループディスカッションを導入し、受講生相互の会話による理解向上に努めた。予習、講義中の授業参加のための課題提示、復習、講義への質問を、コメントペーパーに項目ごとにまとめさせ、着実な講義の理解が進むように努めた。			
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本社会保障法学会、日本労働法学会、過労死防止学会、日本医療福祉政策学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	オープンカレッジ「労働法改正の最近の動向」 出前講座「職場における基本的ルール」（三重県立朝明高等学校）		
学外審議会委員等	三重労働局労働審議会公益委員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	日本福祉大学「社会福祉関係法」夏季集中講義		
3 一言アピール			
労働法も社会保障も改正が頻発し、内容の正確な理解が困難であるが、目先の動きに惑わされることなく、人権保障を本当に実現するために必要な法的知識や、考え方を学生がしっかりと身に受けられるように、日々努力していきます。			



## 三重短期大学教員研究・教育業績（2017年度）

所属：法経科	職名：講師	氏名：鷺尾 和紀
<b>I 研究活動</b>		
1 研究課題： マーケティング生活価値の創造		
2 研究活動実績		
著書	「マーケティング戦略論」-戦略思考の展開- 2017年6月20日初版 共著	
論文	「パーソナルファイナンスの細分化とチャネルの選択行動の変化」『三重法経』第150号	
その他		
学会等報告		
共同研究		
助成研究		
<b>II 教育活動</b>		
1 担当科目： マーケティング論（法Ⅰ、昼、後期、4）、マーケティング論（法Ⅱ、夜、後期、4）、経営特殊講義（法Ⅰ、昼、前期、2）、経営特殊講義（法Ⅱ、夜、前期、2）、演習（法Ⅰ、昼、通年、4）、社会科学演習（法Ⅱ、夜、通年、4）		
2 教育活動実績		
課外活動指導	軽音楽部顧問	
学内教育活動（その他）	クラス担任、オフィスアワー、学外演習（現場実習）、卒論作成指導、編入学のための面接試験指導	
教育上の工夫	<p>マーケティング論(法Ⅰ昼)では、単に専門用語を覚えるだけでなく、身の回りから心がけることで将来へ向けての意識を芽生えさせるような授業展開を行った。</p> <p>レポートや試験ではないが、数回考えさせる課題を与え、受講生個人一人一人にフィードバックを行い、授業の状況と改善点や工夫を求めるようにした。</p> <p>マーケティング論(法Ⅱ夜)では、(法Ⅰ昼)と同様な授業展開を行った。</p>	
	<p>経営特殊講義では、サービス・マーケティングについて講義を行い、身の回りから心がけることで将来へ向けての意識を芽生えさせるような授業展開を行った。</p>	
	<p>演習では、論文を通じて現地調査を行い、論文作成への足掛かりとした。</p> <p>社会科学演習では、レポート作成、発表を数回行い、論文作成の足掛かりとした。</p>	
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>		
1 所属学会： 日本商業学会、パーソナルファイナンス学会、日本広告学会		
2 社会活動実績		
地域連携事業	三重短期大学オープンカレッジ「我が国の市場環境変化におけるさまざまな課題」(2017年10月7日)	
学外審議会委員等	三重県津市一身田商工会メンバー	
学外講演会講師等		
その他の社会活動	伊藤達雄研究室都市環境ゼミナール、MUIネットワーク研究会	
他大学非常勤講師	中央学院大学特別講師(2017年12月)中国理工大学、大連民族大学特別講師(2018年3月)	
3 一言アピール		
<p>マーケティングを通じて、生きる力を身につけ社会に対応できる研究活動と学生指導を行っていきたい。これからも精進してまいります。</p> <p>次回の論文発表予定「日本型生活提案サービス・マーケティングの変革」</p>		

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2017年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：学長・教授	氏名：東福寺 一郎
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：男女共同参画とジェンダーの心理学、加齢に伴う記憶の変化、生涯学習			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会報告			
共同研究			
助成研究			
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：「発達と学習」（共通・教職、昼、後期、2）、「心理学概論」（生活、昼、前期、2）、「心理学基礎実験」（生活、昼、前期、2）、「福祉心理基礎演習」（生活、昼、後期、2）、「福祉心理演習」（生活、昼、通年、4）、「教育実習Ⅰ・Ⅱ、事前・事後の指導」（法Ⅰ、生活、昼、通年、5）、「栄養教育実習、事前・事後の指導」（食栄、昼、通年、2）、「教職実践演習（中学校）」（法Ⅰ、生活、昼、後期、2）、「生活科学概論」（生活、前期、1コマ）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	硬式テニス部顧問		
学内教育活動	「福祉心理演習」において、毎年、フレンテみえが行うウェルカムセミナーを利用し、男女共同参画について学習している。		
(その他)	「福祉心理演習」では、卒業論文を作成し、USBメモリおよびプリントアウトして保存している。		
	オフィスアワーを設定し、学生からの相談を受けている。オフィスアワー以外でも特段の事情がない限り対応している。		
	2012年10月より、学生へのメッセージとして学長室だよりを毎月執筆し、ホームページに掲載している。		
教育上の工夫	<p>発達と学習（全学科、後期）</p> <p>テキストは使用せず、毎回資料を配布する形で進めた。主に前半を発達、後半を学習の内容について講義した。発達においては、生涯発達の考え方や研究法に始まり、乳児期から老年期に至るまでの発達過程を講じた。また、毎回、その時間に取り上げた発達段階にかかわるDVDを視聴し、講義のまとめとした。このDVD視聴は、毎年学生に好評である。一方、学習にかかわる領域についてはパワーポイントを用い、簡単なデモ実験を取り入れるなど、学生の興味を引く工夫を行った。毎回、聴講券で出欠をとったが、その際聴講券の裏に、その日の講義に対する感想や意見を求め（強制ではない）、それらの概要を次回の配布プリントに記載した。その際、質問とみなされる内容については、簡潔に回答を行った。</p> <p>心理学概論（生活科学専攻、前期）</p> <p>テキストは指定せず、毎回資料を配布する形で進めた。また、毎回、次の講義内容にかかわる課題を示し、それをA4の用紙1枚（印刷したものを配布）にまとめ、当日提出させた。この提出物については、次の時間に簡単なコメントをつけて返却している。授業においては、パワーポイントを用い、また簡単な実験やテストを行ったり、ビデオを見るなど、興味が持続できるような工夫を行った。</p> <p>福祉心理基礎演習（生活科学専攻、後期）</p> <p>テキストとして「ブタのいどころ」（小泉吉宏著、メディアファクトリー）を用いた。漫画本ではあるが、心理学的な内容で考えさせられるものである。毎回、4章ずつを指定し、班に分かれての意見交換を行った。また、これとは別に、毎回話題提供者を決め、各自が関心を持つテーマについてレジュメを用意したうえで、口頭発表を行い、それに基づく意見交換の場を設けた。これらの内容については、毎回ポートフォリオとしてまとめ、提出させ、教員からのコメントをつけて返却することを繰り返した。</p> <p>福祉心理演習（生活科学専攻、通年）</p> <p>テキストとして、基礎演習に引き続き「高校生に知ってほしい心理学」（宮本、伊藤編著、学文社）を用いた。それを読み終えた後は、新たに「仲間とかかわる心の進化」（平田聡著、岩波書店）を採用し、1章ずつ読み進めるとともに、ポートフォリオの提出を毎回求めた。また、毎回話題提供者を決め、発表者の報告に基づき、意見交換を行った。後期には、これらの内容に加え、各自の卒論テーマに基づき、発表を行ったり、データ収集のための調査などを実施した。卒論は1月の基礎演習履修者を交えての発表会を開催し、完成後はUSBにまとめて提出させ、卒業論文集を作成した。なお、7月にはフレンテみえにおいてウェルカムセミナーを受講し、男女共同参画についての学習も行った。</p> <p>教育実習Ⅰ・Ⅱ、事前・事後の指導（法経科第1部、生活科学専攻、通年）</p> <p>平成29年度に教育実習を行った学生は5名で、生活科学専攻に限られていた。事前指導としては、1年次の春休みに1日を使って、全員が模擬授業を行い、相互に批判する機会をもった。4月からは事前指導として、本学が作成した教育実習のてびきによる指導、教育実習生の様子を撮ったビデオの視聴、ベテラン教員による授業ビデオの視聴、三重県総合教育センターに勤務する先生による講話などを通じて、心構えを持たせるとともに、授業練習を再度実施し、授業方法について再確認する場をもった。教育実習期間中は、生活福祉・心理コースの他教員の協力を得て、少なくとも1回は実習校を訪問し、学生の授業を見るようにした。また、教育実習終了後は反省会を開催し、各自の実習の様子を報告した。さらに、レポートを提出させ、教職に対する熱意を確認するようにした。</p>		

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2017年度）

<p>栄養教育実習、事前・事後の指導（食物栄養学専攻、通年）                  平成29年度に栄養教育実習を行った学生は4名であった。栄養指導にかかわる専門的内容は阿部が担当し、授業方法については阿部と東福寺が担当した。実習は後期に入ってからであったが、夏休み前に授業練習を行い、その経験を基に夏休み中に教材研究を積めるように配慮した。こうした指導は専ら阿部が担当した。教育実習中の巡回指導も阿部が担当した。実習終了後には生活科学専攻の学生とともに反省会を実施するとともに、レポートを課し、教職に対する熱意を確認した。</p>	
<p>教職実践演習（中学校）（法経科第1部、生活科学専攻、後期）                  履修者は生活科学専攻の学生5名であった。2年間にわたる教職課程の締めくくりとして、教育実習の経験に基づく意見交換、模擬授業とその後の反省会の開催、教育研究所における不登校児童・生徒にかかわる講話、スクールカウンセラーによる講話などを内容として実施した。なお、履修者が少ないことと内容的に重複することから「教職実践演習（栄養教諭）」と合同で行うことも多かった。</p>	
<p>生活科学概論（生活科学科、前期1コマ）                  男女共同参画をテーマとする授業を実施した。パワーポイントを用い、クイズや様々なデータを示しながら、男女共同参画とは何か、なぜそれを進める必要があるのかをわかりやすく講じたつもりである。最後には小テストを実施し、そのうちの1問を各自の男女共同参画に対する考えを尋ねる内容とすることで、講義の理解度を知る一助とした。</p>	
<p><b>Ⅲ 学会等及び社会における主な活動</b></p>	
<p>1 所属学会：日本心理学会、日本教育心理学会、日本認知心理学会</p>	
<p>2 社会活動実績</p>	
地域連携事業	オープンカレッジ担当「公立短期大学の歩みと今」、安濃町恩仲寺、同花光寺、芸濃町光月寺において出前講座「心理学いろいろ」（3か所共通）
学外審議会委員等	三重県社会教育委員（座長）、津市男女共同参画審議会会長、桑名市男女共同参画審議会会長、いなべ市男女共同参画推進委員会委員長、亀山市男女共同参画審議会副会長、津市国際交流協会津支部理事、内閣府男女共同参画推進連携会議委員、日本高等教育評価機構短期大学判定委員会委員、第76回国民体育大会三重県準備委員会委員、亀山市生涯学習審議会委員、津市地域自立支援協議会委員、三重県生涯学習センター運営審議会委員
学外講演会講師等	全国公立短期大学協会事務職員中央研修会講師「短期大学制度と公立短期大学の現状」、全国公立短期大学協会秋季総会鼎談講師「公立短期大学のこれからを考える」
その他の社会活動	全国公立短期大学協会理事・会長、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会顧問会議顧問
他大学非常勤講師	放送大学三重学習センター（面接授業担当、科目名：心理学実験2）
<p>3 一言アピール</p> <p>近年は男女共同参画やジェンダーを中心とした研究ならびに社会活動を続けていますが、学長であるため、研究活動に割く時間は限定されています。定年までのわずかな時間を有効に使い、地域社会への貢献ができればよいと考えています。</p>	

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2017年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻		職名：教授	氏名：伊藤 貴美子
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：食物・栄養とがん予防に関する基礎的研究			
2 研究活動実績			
著書	新食品・栄養科学シリーズ 食べ物と健康⑤ 食品衛生学（共著、化学同人）2017年9月		
論文			
その他	ヘルスクエア「食べ物とがん予防」, Mie Topics No.90（株式会社 三重銀行）2017年10月		
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：食品学（食栄、昼、前期、2）、食品衛生学Ⅰ（食栄、昼、前期、2）、食品学実験（食栄、昼、前期、1）、食品の機能（食栄、昼、後期、2）、食品衛生学Ⅱ（食栄、昼、後期、2）、食品衛生学実験（食栄、昼、後期、1）、特別演習（食栄、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	バスケットボール部顧問		
学内教育活動（その他）	食栄1年次生、2年次生クラス担任。 四年制大学への編入学を希望する学生及び卒業生に対して個別に、専門科目の学習指導、面接指導を実施した。		
教育上の工夫	<p>食品学：受講生の多くが高校までの教育課程で化学の基礎知識を修得していないことから、講義内容を基本的な項目に抑え授業レベルに配慮している。要点をまとめたプリントを配布し、重要事項についてはパワーポイントなどを用いてわかりやすく簡潔に説明することを心がけた。また、分子の構造がよりよく理解できるよう分子構造模型を用いて説明した。その他、復習を習慣づけるため各章ごとに小テストを行ったり、毎回聴講券の裏に質問や感想を書かせて学生とのコミュニケーションがとれるよう努めた。</p> <p>食品衛生学Ⅰ：本講義では、微生物一般に関する基本的事項を学び、さらに主な微生物性食中毒について、予防に必要な基礎知識と応用力を習得する。断片的な知識の暗記に終わるのではなく、微生物が係わる食の安全性についてさまざまな角度から考察し理解を深め、体系的な知識と考え方が身につくよう努めた。そのためプリントやパワーポイントなどで多くの参考資料も提供した。また、毎回聴講券の裏に質問や感想を書かせ、学生とのコミュニケーションがとれるよう努めた。</p> <p>食品学実験：多くの学生がこれまでに化学実験の基礎知識や技術、レポートの書き方などを学ぶ機会をもっていないため、基礎的事項を何度も繰り返し説明したり、実験項目ごとに「提出用レポート用紙」を配布してレポートの書き方を修得できるよう工夫した。また予習課題や設問を設け、学生が実験を通して食品に対する理解を深めることができるよう努めている。</p> <p>食品の機能：「健康に良い」とされる食品成分について、その生体影響のメカニズムや安全性をわかりやすく簡潔に説明することを心がけた。また、パワーポイントや問題解決型の授業形式を取り入れることにより、学生が自主的に興味を持って学べるよう努力した。毎回聴講券の裏に質問や感想を書かせて学生とのコミュニケーションがとれるよう努めた。</p> <p>食品衛生学Ⅱ：食の安全性について、最近の話題も含め、体系的な知識と考え方が身につくよう努めた。そのためプリントやパワーポイントなどで多くの参考資料も提供した。期末試験のほかに、受講者の理解度を確認するため中間試験を実施した。毎回聴講券の裏に質問や感想を書かせて学生とのコミュニケーションがとれるよう努めた。</p> <p>食品衛生学実験：実験項目ごとに「提出用レポート用紙」を配布してレポートの書き方を修得できるよう工夫した。また予習課題や設問を設け、学生が実験を通して食品の安全性に対する理解を深めることができるよう努めている。</p> <p>特別演習：前年度に引き続き、抗酸化物質（ビタミンC）の生体影響について、コメントアッセイ法を用いて検討を進めた。そのなかで、学生が主体的に学び考える力を育てる指導を心掛け、また食生活と健康の関係についての知識を深めると共に、実験技法や得られた結果のまとめ方、研究発表のプレゼンテーションの方法などが修得できるよう努めた。</p>		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本癌学会、日本薬学会、日本栄養・食糧学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	連携授業、三重県立相可高等学校「天然色素に関する実験：野菜の色の変化について調べてみよう」2017年9月21日 出前講座、津市中央公民館「健康食品を考える」2017年10月4日 JA三重中央ベジマルファクトリーとのコラボ商品開発		
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2017年度）

### 3 一言アピール

食と健康との関係について関心が高まるなか、メディアなどを介して次々と「健康にいい」食品やサプリメントが紹介されていますが、その多くは科学的根拠に乏しく、安全性の検討も十分ではありません。真に有効かつ安全な「食による疾病予防法」を提案できるよう、さまざまな食品由来成分について、その生体影響を分子、細胞、個体レベルで解析検討しています。

（研究テーマの応用例：がん予防効果を有する安全な食物因子の検索、食物因子による発がん機構の解析）

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2017年度）

所属：生活科学科生活科学専攻	職名：教授	氏名：南 有哲
<b>I 研究活動</b>		
1 研究課題：「人間中心主義批判」の批判的検討		
2 研究活動実績		
著書		
論文	「人間中心主義批判」をどう見るか 経済科学通信 (143) 58-63 7月	
その他	交雑ザル殺処分問題を環境倫理から考える ( <a href="https://thepage.jp/series/653/">https://thepage.jp/series/653/</a> ) 5月	
学会等報告		
共同研究		
助成研究		
<b>II 教育活動</b>		
1 担当科目：環境論（共通、夜、前期、2）、生活経営（食栄・生活、昼、前期、2）、環境政策論（法Ⅰ・生活、昼、後期、2）、環境政策論（法Ⅱ、夜、後期、2）、環境倫理学（生活、昼、後期、2）、環境共生論（生活、昼、前期、2）、居住環境特別演習（生活、昼、通年、4）		
2 教育活動実績		
課外活動指導		
学内教育活動 （その他）	一年次クラス担任、科学英語講読会	
教育上の工夫	環境論（共通、夜、前期、2）：自然科学的テーマに内容を限定 生活経営（食栄・生活、昼、前期、2）：生命再生産活動の概念を丁寧に説明し、市場経済の原理的なレベルでの理解を合わせて、現代における生活者の基本課題を理論的に解説している。 環境政策論（法Ⅰ・生活、昼、後期、2）：社会科学的テーマに内容を限定。 環境政策論（法Ⅱ、夜、後期、2）：社会科学的テーマに内容を限定。 環境倫理学（生活、昼、後期、2）：主たる理論潮流と現実課題をセットで論じ、理解を深める。 環境共生論（生活、昼、前期、2）：毎回視聴覚教材を使用し、環境問題のリアルな理解を図っている。 居住環境特別演習（生活、昼、通年、4）：視聴覚教材を利用してリアルな認識を得たうえで、それを基にした説明と討論を行い、最後に感想文を書かせることで、参加者自身の認識の深化を図っている。	
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>		
1 所属学会：唯物論研究協会、日本家政学会、科学基礎論学会		
2 社会活動実績		
地域連携事業	三重短期大学オープンカレッジ 第1講座「環境倫理から見る『交雑ザル殺処分問題』」 7月	
学外審議会委員等	津市環境基本計画推進市民委員会委員、津市廃棄物減量等推進審議会委員	
学外講演会講師等		
その他の社会活動	唯物論研究協会運営委員・編集委員	
他大学非常勤講師		
3 一言アピール		
特になし		
（研究テーマの応用例：外来生物問題の環境倫理）		

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2017年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：教授	氏名：長友 薫輝
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：社会福祉および社会保障制度・政策研究、地域福祉・地域医療研究、社会福祉援助技術論研究			
2 研究活動実績			
著書	『新しい国保のしくみと財政』自治体研究社、2017年7月（神田敏史氏と共著）		
論文	「新たな公的医療費抑制策の展開～国保の都道府県単位化と保険者に求められる政策的対応～」『自治と分権』No.70、2018年		
	「貧困・無保険者へのアプローチ」『国民医療』No.335、2017年		
	「『地域医療構想』と国民の求める医療・介護保障を考える」『国民医療』No.334、2017年		
	「社会保障と地域経済～地域医療をどうつくるか～」『月刊民商』No.59、2017年		
その他	「住民本位の地域包括ケアを探る」『地研年報』No.22、2017年9月 「住民本位の地域包括ケアを探る」『大阪保険医雑誌』2016年9月号～2018年5月号まで連載中		
学会等報告	第1回日本医療福祉政策学会研究大会、2017年12月（会場：神戸大学）		
共同研究 助成研究	「地域の医療保障と皆保険体制の動向について」2017年度 三重短期大学地域問題研究所研究員		
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：社会保障論Ⅰ（生活、昼、前期、2）、社会保障論Ⅱ（生活、昼、後期、2）、社会福祉論Ⅰ（生活、昼、前期、2）、社会福祉論（法Ⅰ、昼、前期、2）、地域福祉論Ⅱ（生活、昼、後期、2）、社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（生活、昼、後期、3）、社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（生活、昼、前期、3）、社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ（生活、昼、後期、3）、福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2）、福祉心理演習（生活、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	ボランティアサークル部顧問		
学内教育活動 （その他）	四年制大学への編入を希望する学生に、小論文の書き方指導、面接指導を個別に実施した。1年生クラス担任（前期）、オフィスマナー（火曜日3限）、学外演習（自治体、福祉施設等の現場での演習）、卒論作成指導		
教育上の工夫	社会保障論Ⅰ（生活、昼、前期、2） 担当科目すべてにおいてわかりやすさを追求している。そのための工夫として、学生には毎回の授業時に感想や質問を記してもらい、コメントを付けて翌週に返却している。社会保障論においては特に学生にとって難解な用語が多く、解説に時間を割いている。		
	社会保障論Ⅱ（生活、昼、後期、2） 担当科目すべてにおいてわかりやすさを追求している。そのための工夫として、学生には毎回の授業時に感想や質問を記してもらい、コメントを付けて翌週に返却している。社会保障論においては特に学生にとって難解な用語が多く、解説に時間を割いている。		
	社会福祉論Ⅰ（生活、昼、前期、2） 担当科目すべてにおいてわかりやすさを追求している。そのための工夫として、学生には毎回の授業時に感想や質問を記してもらい、コメントを付けて翌週に返却している。社会福祉論においては、貧困問題に関心を持って深めること、そして多様性を理解してもらえるよう、伝え方などに工夫を重ねている。		
	社会福祉論（法Ⅰ、昼、前期、2） 担当科目すべてにおいてわかりやすさを追求している。そのための工夫として、学生には毎回の授業時に感想や質問を記してもらい、コメントを付けて翌週に返却している。社会福祉論においては、貧困問題に関心を持って深めること、そして多様性を理解してもらえるよう、伝え方などに工夫を重ねている。		
	地域福祉論Ⅱ（生活、昼、後期、2） 担当科目すべてにおいてわかりやすさを追求している。そのための工夫として、学生には毎回の授業時に感想や質問を記してもらい、コメントを付けて翌週に返却している。その上で地域福祉論においては、地域の様々な生活上の課題に関心を深めてもらえるよう、地域調査の手法を用いて問題意識の醸成に努めている。		
	社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（生活、昼、後期、3） 1年生にとって初めての実習であり、ほどよい緊張感を持って臨んでもらえるよう、そして良好な人間関係を築くことができるよう、指導を行っている。		
	社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（生活、昼、前期、3） 18日間と長期に渡る実習期間において、実習先の利用者・職員の方々との良好な人間関係を築き、より多くのことを学び取ることができるよう指導を行っている。		
	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ（生活、昼、後期、3） 実習をより効果的なものとするため、実習先についての問題関心を深めるとともに、社会福祉の視点を持ち、実習先の利用者・職員の方々との良好な人間関係を築き、より多くのことを学び取ることができるよう指導を行っている。		

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2017年度）

	福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2） 各人の問題意識に従って研究報告を行い、卒業論文を提出できるよう指導している。
	福祉心理演習（生活、昼、通年、4） 各人の問題意識に従って研究報告を行い、卒業論文を提出できるよう指導している。
<b>Ⅲ 学会等及び社会における主な活動</b>	
1 所属学会：日本社会福祉学会、社会政策学会、日本医療福祉政策学会、日本社会福祉士会、三重県社会福祉士会	
2 社会活動実績	
地域連携事業	出前講座「生活に身近な社会保障制度について」三重県立朝明高校、2017年7月 三重弁護士会刑事弁護委員会「裁判員裁判模擬裁判員について」津地方裁判所、2018年1月 津市白山地域元取地区自治会・公民館・結の会「元取あつまろう会・福祉活動交流会」2018年3月
学外審議会委員等	三重県社会福祉審議会委員、三重県国民健康保険運営協議会委員、三重県障害者自立支援協議会会長、三重県行政不服審査会委員、松阪市地域包括ケア推進会議会長、松阪市高齢者保健福祉計画等策定委員会委員、松阪市民病院のあり方検討委員会委員、津市NPOサポートセンター理事、日本医療福祉政策学会副会長、日本医療総合研究所理事、自治体問題研究所理事、総合社会福祉研究所紀要編集委員
学外講演会講師等	社会福祉・社会保障、地域医療、国民健康保険、地域づくり等に関するテーマで年間30回程度引き受けている。
その他の社会活動	医療、介護、社会福祉に関するマスコミへの取材協力、寄稿
他大学非常勤講師	名城大学経済学部「地域福祉論」、皇学館大学現代日本社会学部「社会保障論」、三重県立看護大学「社会福祉学」、四日市大学経済学部「社会福祉学」、金沢大学大学院医薬保健学総合研究科「医療経済特論」
3 一言アピール	
<p>地域を元気にする調査・研究を地域づくりに関わる人々で行っています。また、社会保障制度をわかりやすく話すとともに、多様な社会をどうつくるか、をテーマに教育・研究活動を行っています。</p> <p>（研究テーマの応用例：地域医療、地域福祉に関するワークショップや計画づくり、地域住民の意向調査、医療法人・社会福祉法人職員研修）</p>	



## 三重短期大学教員研究・教育業績（2017年度）

所属：生活科学科生活科学専攻	職名：教授	氏名：木下 誠一
<b>I 研究活動</b>		
1 研究課題：住宅・施設における生活空間の計画		
2 研究活動実績		
著書		
論文	「三重県の公共複合施設における共用空間の構成」 三重短期大学生活科学研究会紀要 第66号、2018年3月	
その他		
学会等報告		
共同研究 助成研究		
<b>II 教育活動</b>		
1 担当科目 居住計画論（生活・昼・前期・2）、居住福祉論（生活・昼・後期・2）、住生活論（生活・昼・後期・2）、住生活設計1（生活・昼・後期・2）、住生活設計2（生活・昼・前期・2）、居住環境特別演習（生活・昼・通年・4）		
2 教育活動実績		
課外活動指導	女子バスケットボール部顧問	
学内教育活動 (その他)	1年次クラス担任、オフィスアワー、卒業研究指導、編入学指導	
教育上の工夫	<p>居住計画論（生活・昼・前期・2） パワーポイントやビデオを使用して、視覚的に理解しやすい講義を心掛けている。しかし、学生の質問や意見を授業に反映させることが不十分であるため、今後は質問用紙を配布して次の授業で回答を紹介するなどの工夫を考えたい。</p> <p>居住福祉論（生活・昼・後期・2） パワーポイントやビデオを使用して、視覚的に理解しやすい講義を心掛けている。また、学生の資格取得への関心と意欲を高めるため、資格試験に関連した内容を演習問題などに一部取り入れている。しかし、学生の質問や意見を授業に反映させることが不十分であるため、今後は毎回実施する小テストに質問も書いてもらい、次の授業で回答するなどの対応を考えたい。</p> <p>住生活論（生活・昼・後期・2） パワーポイントやビデオを使用して、視覚的に理解しやすい講義を心掛けている。大教室を使用しているが、後方の学生まで十分目配りできていないため、その点を注意していきたい。</p> <p>住生活設計1（生活・昼・後期・2） 学生の理解度や作業の進捗度において個人差が大きいため、学生一人ひとりの状況に応じた個別指導を心掛けている。今年は外部講師の指導を試験的に数回取り入れたが、学生にも好影響を与えているようであったため、今後も検討していきたい。</p> <p>住生活設計2（生活・昼・前期・2） 学生の理解度や作業の進捗度において個人差が大きいため、学生一人ひとりの状況に応じた個別指導を心掛けている。また、学生同士が互いに意見を交わしながら創作活動に取り組める環境を大切にしている。しかし、授業に関係のない私語で騒がしくなることがあるため、私語は慎むよう指導していきたい。</p> <p>居住環境特別演習（生活・昼・通年・4） 学生の主体性を尊重し、学生自身に研究テーマを設定させている。また、学生のモチベーションを高めるため、研究成果を居住環境コースの卒業研究発表会で発表するほか、全国卒業設計展への出展や作品集の作成などを行っている。</p>	
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>		
1 所属学会：日本建築学会		
2 社会活動実績		
地域連携事業	三重短期大学オープンカレッジ「高齢者の住まい」 2017年8月5日	
学外審議会委員等	三重県開発審査会委員、三重県公共事業評価審査委員会委員、老人保健福祉施設整備事業事前審査会、三重県ユニバーサルデザインのまちづくり推進協議会委員、鈴鹿市景観審議会審査部委員、鈴鹿市景観アドバイザー、松阪市景観アドバイザー、鳥羽市都市計画審議会委員	
学外講演会講師等		
その他の社会活動		
他大学非常勤講師		
3 一言アピール		
子どもから高齢者まで快適に暮らせる生活空間の質向上を目指した提案を行っていきたくと思っています。		
（研究テーマの応用例：住宅や各種施設の計画・設計）		

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2017年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻		職名：教授	氏名：山田 徳広
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：プロテアーゼを用いた牛乳と豆乳のゲル化食品に関する研究、食品成分の血糖上昇抑制効果に関する研究、n-3系多価不飽和脂肪酸の栄養に関する研究、津市並びに三重県の食材を用いた加工食品の開発に関する研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	苔庵泰志, 梅谷かおり, 栗田 修, 山田徳広, ショウガ( <i>Zingiber officinale</i> )抽出物を用いた豆乳ゲルの特性評価, 三重県工業研究所研究報告41, pp.78 - 83 (2017年12月)		
	高木祐介, 山田徳広, 関 和俊, 小木曾洋介, 古淵陸行, 川岸岳人, 笠次良爾, 心拍数及び登高ペースからみた若年成人男性の富士宮ルートを使用した日帰り富士山登山の上り時における身体的負担について, ウォーキング研究20, pp.P65 - 68 (2017年3月23日)		
その他			
学会等報告	山田徳広, 津村和伸, 苔庵泰志, 梅谷 かおり, 清水 純, 栗田 修, 種々の日本産ショウガ( <i>Zingiber officinale</i> )のプロテアーゼ活性の評価に関する研究, 日本農芸化学会2018年大会, 018年3月17日(名古屋)		
	山田徳広, 苔庵泰志, 梅谷かおり, 津村和伸, 清水 純, 栗田 修, 産地の異なるショウガ( <i>Zingiber officinale</i> )のプロテアーゼに関する研究, 日本食品化学工学会第64回大会, 2017年8月28日(藤沢)		
	Yusuke TAKAGI, Kazutoshi SEKI, Yosuke OGISO, Takayuki KOBUCHI, Yuki ETO, Taketo KAWAGISHI, Ryoji KASANAMI and Norihiro YAMADA, Changes in the indices of physiological and psychological stress during the ascent of oneday Mt. Fuji hiking in first hikers. 第4回アジア・太平洋登山医学会学術集会・第37回日本登山医学会学術集会, 2017年6月4日(松本)		
共同研究 助成研究	三重県工業研究所との共同研究		
	岡三加藤文化財団研究助成金		
	地域問題研究所研究助成		
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：栄養学（食栄、昼、後期、2）、生化学（食栄、昼、前期、2）、ライフステージ栄養学（食栄、昼、前期、2）、食生活（食栄、昼、後期、2）、生化学実験（食栄、昼、前期、1）、栄養学実験（食栄、昼、後期、1）、特別演習（食栄、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)	編入希望者の指導、卒業生の管理栄養士国家試験受験指導		
教育上の工夫	生化学（食栄、昼、前期）：高等学校で化学を履修していない学生が多くなったことから、高校化学の基礎的事項から講義している。後期の栄養学の教科書も購入させ、両科目で重なる部分を整理して効率的に教えている。		
	生化学実験（食栄、昼、前期）：高等学校で化学を履修していない学生が多くなったことから、高校化学の基礎的事項から講義している。また、初めての実験授業であることから、実験の心得、実験器具の基本的書き方などをじっくり教えている。		
	栄養学（食栄、昼、後期）：前期の生化学とリンクさせながら、栄養素の代謝について教授している。前期の生化学において栄養学の教科書も購入させ、両科目で重なる部分を整理して効率的に教えている。		
	栄養学実験（食栄、昼、後期）：栄養素の特徴、消化のされかた、代謝のされかたなどを、実験を通して体験させている。実験をするだけでなく、実験データの信頼性の評価の仕方まで踏み込んでいる。		
	食生活論（食栄、昼、後期）：食に関する社会問題について、DVDも使いながら講義している。DVDを見た後は必ずA4レポート用紙1枚分のレポートを書かせ、食の問題に関して意見をまとめられる様、訓練している。今後も、食の問題が社会環境		
ライフステージ栄養学（食栄、昼、前期）：4年生課程では通年30回で実施する授業であるが、半期15回しか時間が無いので、パワーポイントを使って効率的に授業をしている。特に、これから学生自身にとって重要となる、妊娠期と子供の栄養についてじっくりと教えている。			
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本栄養食糧学会、日本農芸化学会、日本食生活学会、日本食品科学工学会、日本食品保蔵科学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	三重リーディング産業展参加		
	513ペーカリーとのコラボ企画指導		
	地域連携カフェ『Café HONOBUNONO』参加		
	平成30年1月21日（日） 花光寺にて「糖尿病との付き合い方」というテーマで出前講座を実施		
学外審議会委員等	Sport Sciences for Health誌の査読		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2017年度）

他大学非常勤講師

### 3 一言アピール

超高齢社会を迎えた我が国では、高齢者の栄養障害と嚥下障害が問題となっている。たんぱく質分解酵素であるプロテアーゼは、牛乳中または豆乳中のたんぱく質を分解することによってゲルを形成する。このことを利用して高齢者の嗜好に合うと共に、栄養価が高く、嚥下しやすい食品を開発する。

現在、糖尿病の増加が大きな社会問題となっている。食品成分の中には、糖の吸収を抑えたり、インスリンの分泌を促すインクレチンの分泌を促進したり、インクレチンを分解する酵素DPPIVの作用を阻害することによって血糖の上昇を抑えるものがある。新たな血糖上昇抑制効果を持つ食品成分や食材を探索する。

n-3系多価不飽和脂肪酸は抗肥満作用、血中脂質改善作用、抗動脈硬化作用、抗アレルギー作用など様々な機能が明らかとなっている。近年、n-3系多価不飽和脂肪酸にインスリンの分泌を促すインクレチン分泌促進作用があることが明らかとなった。抗糖尿病作用を中心としてn-3系多価不飽和脂肪酸の栄養を探索する。

津市や三重県には様々な農産物がある。津市や三重県の食材を用いた新たな加工食品を開発して提案する。

（研究テーマの応用例：高齢者用ゲル化食品の開発、血糖値が上がらないスイーツ開発、血糖値が上がりにくい食事方法の提案、津市や三重県の食材を用いた新たな加工食品の開発）

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2017年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻		職名：准教授	氏名：阿部 稚里
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：栄養教育の有効性に関する研究、ビタミンE代謝に関する研究			
2 研究活動実績			
著書	伝え継ぐ日本の家庭料理 すし、企画編集（一社）日本調理科学会、（p17でこねずし担当）、2017年12月（共著）		
論文	阿部稚里、阪野朋子、内田友乃、佐野可奈、池田彩子. (2017). 初等中等教育および高等教育におけるビタミン学習の現状と課題—大学生を対象にしたビタミン関連用語の認知度調査の結果から—. ビタミン 91: 688-695.		
その他			
学会等報告	鷺見 裕子、阿部 稚里、飯田 津喜美、磯部 由香、乾 陽子、萩原 範子、奥野 元子、久保 さつき、小長谷 紀子、駒田 聡子、成田 美代、平島 円、水谷 令子「三重県の家庭料理 おやつの特徴 -材料・季節による分類-」日本調理科学会平成29年度大会、（東京）、2017年8月		
共同研究	一般社団法人日本調理科学会 特別研究 『次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理』 三重県研究調査 家庭内環境を考慮した女性3世代の食習慣と健康状態に関する栄養疫学的横断研究 ビタミンE代謝に関する研究		
助成研究	文部科学省科学研究費補助金 若手研究（B）課題番号26870801「食事バランスガイドと簡易型自記式食事履歴問票を用いた食教育の注意点の把握」2014-2018年度		
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：栄養教育論Ⅰ（食栄、昼、前期、2）、栄養教育論実習Ⅰ（食栄、昼、前期、1）、栄養教育論Ⅱ（食栄、昼、後期、2）、栄養教育論実習Ⅱ（食栄、昼、後期、1）、教職実践演習（食栄、昼、後期、2）、校外実習事前事後指導（食栄、昼、通年、1）、給食計画実務論実習Ⅱ（食栄、昼、通年、1）、事前・事後の指導（食栄、昼、通年、1）、栄養教育実習（食栄、昼、通年、1）、特別演習（食栄、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動（その他）	クラス担任（食栄1年生、食栄2年生）		
教育上の工夫	<p>栄養教育論Ⅰは、栄養士免許必須科目であり、栄養士として必要な定義、歴史、目的、対象、場、法的根拠および栄養士が教育を行うための方法論を教える教科である。1年生の前期という、栄養士に関連する専門知識をほとんど持たない中、この幅広い範囲を学ぼうと学生はよく頑張ったと思う。教科内容である行動目標シートでは、学生の努力がみられた。</p> <p>栄養教育論実習Ⅰでは、個人に対する栄養教育を行うために、カウンセリングの手法を使った話し方、媒体作成、栄養教育の実施および評価を行った。一通り自分自身で行うことで、学生は非常に成長したと思う。自主的な学習もほとんどの学生が行い、自ら学ぼうとする意欲もみられた。</p> <p>栄養教育論Ⅱでは、対象者に対応した栄養教育プログラムの作成、実施、評価を総合的にマネジメントできる能力を身に付けることを目標に、行動科学やカウンセリングなどの理論を応用して身体的、精神的、社会的状況、ライフステージ・ライフスタイルに応じた栄養教育のあり方と方法について、主にプリントを用いながら講義した。たくさんの学生から質問が出ており、教科内容や栄養士について興味を深めたのが伺えた。今後も学生の意見を踏まえ、しっかり講義内容に反映させていきたい。</p> <p>栄養教育論実習Ⅱでは、栄養教育教室企画のプレゼンテーションと発表を演習した。自主的に演習する内容が多く、この2年間の集大成になったという意見が多かった。また、履修者同士でリハーサルを行い、評価したり教え合ったりする姿も見え、コミュニケーションを取る大切さも身につけられたように思う。今後も栄養士や栄養教育にもっと興味を持てるよう、声掛けをしていきたい。</p> <p>教職実践演習では、教職課程の最終的なまとめを行った。より良い教師像をめざして様々なテーマでディスカッションを繰り返し、思考を深めたのが伺えた。</p> <p>校外実習事前事後指導では、栄養士実習に必要な知識やマナー、課題研究に積極的に取り組めるよう指導を行った。特に、実習先ごとに重点的に準備すべき内容が異なるため、できる限り個別に対応した。</p> <p>給食計画実務論実習Ⅱは、学外で栄養士実習を行う教科である。巡回指導をし、担当栄養士や学生との連携を深め、より充実した実習になるように努めた。</p> <p>事前・事後の指導では、教育実習に必要な知識やマナー、研究授業に積極的に取り組めるよう指導を行った。研究授業内容は各自異なるため個別に対応したが、その意見は全員にフィードバックさせた。</p> <p>栄養教育実習は、栄養教育論の教育実習を行う教科である。巡回指導押し、担当栄養教育論や学生との連携を深め、より充実した教育実習になるように努めた。</p> <p>特別演習では、食事調査を実践して卒業論文にまとめた。また、津市特産物を使ったつ乃めぐみ弁当レシピも開発した。小論文コンクールに全員が参加し、学長賞1名、佳作1名という結果だった。</p>		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本栄養士会、日本栄養改善学会、日本家政学会、日本栄養・食糧学会、日本調理科学会、日本農芸化学会、日本ビタミン学会、ビタミンE研究会、ゴマ科学会			
2 社会活動実績			

### 三重短期大学教員研究・教育業績（2017年度）

地域連携事業	つ乃めぐみ弁当開発 ベジマルファクトリーレシピ開発へのアドバイザー
学外審議会委員等	日本栄養・食糧学会中部支部参与
学外講演会講師等	「栄養士・管理栄養士を目指して」（講演），津商業高等学校，1年生，2018年2月 「バランスのいい食事をしよう」（講演），津地方裁判所，津地方裁判所職員，2017年12月
その他の社会活動	
他大学非常勤講師	
<p>3 一言アピール</p> <p>栄養教育とは、対象とする個人や集団のQuality of Life (QOL) を高めるために、教育手段を用いて好ましい食行動の実践と習慣化を促すために、具体的に働きかけることです。そこで、食行動のよりよい変容を促すために、有効な栄養教育法について検討しています。また、必須栄養素であるビタミンEは、1920年代に発見されたのにもかかわらず、その主な代謝産物が報告されたのは、1990年代後半と比較的最近です。その同族体の体内動態については未だ不明な点も多いため、ビタミンE代謝の詳細な解明を目的として研究を行っています。</p>	

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2017年度）

所属：1 生活科学科生活科学専攻		職名：准教授	氏名：北村 香織
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：障害を持つ人に対する地域生活支援、社会福祉政策史（医療政策史含む）			
2 研究活動実績			
著書			
論文	「『大阪・水上生活者調査』（1935）と『東京・滝野川区健康調査』（1938）—貧困をみる眼・生活をみる眼—」『地研年報』第22号、2017年9月		
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究	2017年度 三重短期大学地域問題研究所研究員 龍谷大学社会学部受託研究員（2017年10月1日～2018年3月31日：在外研修）		
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：障害者福祉論（生活、昼、前期、2）、社会福祉発達史（生活、昼、前期、2）、社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ（SS、昼、前期、3）、演習（生活、昼、通年、4）、社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（生活、昼、前期、3）、社会保障論Ⅰ（生活、昼、前期、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	1年生クラス担任（前期）、オフィスアワー（火曜日：4限）、卒論作成指導、4年制大学への編入希望者に対し、小論文及び面接対策を行った。		
教育上の工夫	<p>障害者福祉論（生活、昼、前期、2） 映像や資料を積極的に利用し、社会福祉に関わる問題について具体的なイメージをもちながら、概念を理解してもらえるように努めています。また、講義の流れを予め学生に周知することで、講義に集中できるように工夫をしています。</p> <p>社会福祉発達史（生活、昼、前期、2） 歴史を知るためにはまず、「社会福祉」の概要をつかまなければならないが、1年生の受講生も一定教いるため、歴史を扱う前に社会福祉の概要についての講義も行うなど工夫をしています。また、視覚的に理解できるよう、資料に工夫をしたり、その時代に起こった世界史的なできごと（中学高校で習ったもの）も取り上げながら話を進めることで、少しでも物事が繋がればと考えています。</p> <p>社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（生活、昼、前期、3） 1年次に行った実習を基にステップアップできるように、実習巡回の際には課題の振り返りと明確化を心がけた。実習指導者に対しても、1年次実習の様子も含めてお伝えし、情報の共有を図った。また、精神的に不安定になる学生も多いので、18日間を安定的に過ごせるようにコミュニケーションにも工夫をした。お礼状を含めた事後の指導についても、全体的な指導だけではなく、個別指導も行った。</p> <p>社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ（SS、昼、前期、3） 1年次の実習の成果をまとめつつ、2年次の実習をより効果的なものとするため、実習先についての問題関心を深めるとともに、社会福祉の視点をもち、実習先の利用者・職員の方々と良好な人間関係を築き、より多くのことを学び取ることができるよう指導を行いました。</p> <p>演習（生活、昼、通年、4） ゼミ生の中にはそれぞれ経済的・身体的・精神的問題を抱えた学生が存在するが、それぞれがその存在を認め合いながら、互いに意見を交換できる様、そしてそれを主体的に行えるように雰囲気づくりを含めて工夫を重ねています。卒業論文指導はもちろんのこと、就職・編入学の書類の指導についても行いました。</p> <p>社会保障論Ⅰ（生活、昼、前期、2） 社会保障の用語は難解なものも多く、とっつきにくいイメージも持たれがちである。用語解説は特にわかりやすくするように心がけ、まずは、社会保障という制度の骨格を捉えてもらえるように説明に工夫をしました。また、社会保険制度を中心とする各制度については具体例を交えながら、テキストでの復習も行いやすいような授業進行を心掛けました。</p>		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本社会福祉学会、障害学会、日本社会福祉士会、京都社会福祉士会、医学史研究会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	津市地域公共交通活性化協議会委員、津市の公共交通を考える市民研究会 代表、三重県ユニバーサルデザインのまちづくり推進協議会委員、社会福祉法人鈴風会評議員、社会福祉法人風の丘評議員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2017年度）

他大学非常勤講師	
<p>3 一言アピール</p> <p>障害を持つ人、特に知的障害や発達障害を持つ人が地域で生活するためにはどのような施策が必要なのか、どのようにすれば具体的に実現可能であるのかを追求しています。また、戦中・占領期の社会福祉政策の成立過程についての研究にも力を入れています。</p> <p>(研究テーマの応用例：ユニバーサルデザインのまちづくり、知的障害・発達障害の理解と人権)</p>	

三重短期大学教員研究・教育業績（2017年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：准教授	氏名：清道 亜都子（休職中）
I 研究活動			
1 研究課題：			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)			
教育上の工夫			
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本教育方法学会、日本教育心理学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			



## 三重短期大学教員研究・教育業績（2017年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：准教授	氏名：武田 誠一
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：在宅生活を支援する地域包括ケアの研究、介護支援専門員のケアマネジメント過程の研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	単著「『地域包括ケア病棟』の地域での役割——病床機能報告の分析から——」『地研年報』（22）47-54 2017年9月		
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究	地域問題研究所 研究員 テーマ「地域包括ケアシステムの深化に必要となる医療・介護供給体制の総合的研究」		
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：社会福祉援助技術総論（生活、昼、前期、4）、医療福祉論（生活、昼、前期、2）、社会福祉援助技術論Ⅰ（生活、昼、後期、4）、福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2）、福祉心理演習（生活、昼、通年、4）、社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（生活、昼、前期、3）、社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（生活、昼、後期、3）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)			
教育上の工夫	<p>医療福祉論 専門的な内容であったが、それが学生の知的刺激に結びついているのであれば、その期待に応えられるように、今後も講義で取り上げる内容を更にブラッシュアップしていきたい。</p> <p>他方、学生の質問や意見に関しては、授業時間内で十分確保できていなかった点が、結果に反映されていると考える。一言カードの導入などを検討していきたい。</p> <p>社会福祉援助技術総論 ソーシャルワークを理解できるようにグループワークなどを取り入れた。また、福祉問題に関心が向くように新聞記事レポートを実施した。他方、学生の質問や意見に関しては、授業時間内で十分確保できていなかった点が、結果に反映されていると考える。一言カードの導入などを検討していきたい。</p> <p>社会福祉援助技術論Ⅰ 少人数であるため、グループワークを多用した、また、放送番組センター収録番組を視聴覚教材として用いた、それらの教材に対する評価が結果に反映されていると考える。</p> <p>他方、学生の質問や意見に関しては、授業時間内で十分確保できていなかった点が、結果に反映されていると考える。一言カードの導入などを検討していきたい。</p> <p>福祉心理基礎演習 新聞レポートを活用し、意見発表を積極的に行えるように工夫を行った。</p> <p>福祉心理演習 卒業論文の完成に向け、個別指導と全体での指導を合わせ実施した。</p>		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本社会福祉学会、日本保健福祉学会、日本保健医療福祉連携教育学会、日本医療・病院管理学会、日本プライマリ・ケア連合学会、社会政策学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	<p>地域連携講座「高齢者の社会保障と貧困」2017年11月11日 出前講座 テーマ「地域で高齢者の生活を支えるために、私たちができること」 2017年8月25日 主催 老人クラブサン・和みの会 会場 鈴鹿市 郡山公民館 2017年12月8日 主催 みえ医療福祉生協協同組合 会場 津市 地域支援センターえがお</p>		
学外審議会委員等	津市介護保険事業等検討委員 2016年10月～、松阪市 福祉有償運送運営協議会委員 2017年4月～、多気郡 福祉有償運送運営協議会委員 2017年10月～、四日市市障害者差別解消支援地域協議会委員 2018年3月～		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	皇學館大学現代日本社会学部「公的扶助論」、日本こども福祉専門学校通信教育部社会福祉士学科「保健医療サービス」		

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2017年度）

### 3 一言アピール

福祉、介護、医療での支援のあり方について、関心を持ち研究しております。  
専門職として職場や地域で自己研鑽を目指す方と協働していければと考えております。

（研究テーマの応用例：ケアプラン（居宅介護支援計画）の検討・学習会、地域包括ケアのための社会資源開発の研究、地域ケア会議の円滑な運営に関する研究）

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2017年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：准教授	氏名：小野寺 一成
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：地方都市における持続可能な集約型都市構造の検討、行政計画体系における広域都市計画、都市農村計画の意義、人口減少期の都市計画のあり方、住民参加と都市計画理論の共存、住民参加型計画の効果			
2 研究活動実績			
著書			
論文	地方都市における郊外住宅団地の立地条件と入居者状況に関する研究 ―四日市市の郊外住宅団地を事例として― 三重短期大学紀要 第66号 2018年3月		
その他			
学会等報告	地方都市における郊外住宅団地の立地条件と入居者状況の考察 ―四日市市郊外住宅団地を事例とした高齢化率と入居率の実態― 2017年度日本建築学会大会（都市計画）学術講演概要集（中国） pp1051～1052		
共同研究 助成研究	地域問題研究所 研究員 テーマ「地方都市再生に向けたコンパクトな都市構造の形成と都市再生手法に関する研究（その2）」		
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：「まちづくり設計Ⅰ」（生活、昼、前期、1）、「住環境計画」（生活、昼、前期、2）、「地域政策論」（食・生活・法Ⅰ、昼、前期、2）、「地域政策論」（法Ⅱ、夜、前期、2）、「まちづくり設計Ⅱ」（生活、昼、後期、1）、「地域環境学」（生活、昼、後期、2）、「都市計画論」（生活、法Ⅰ、昼、後期、2）、「居住環境特別演習」（生活科学科：通年）、生活科学概論（基礎・昼・前期・2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	都市計画ゼミにて、歴史的・文化的遺産が遺されている、名古屋市 町並み保存地区「白壁・主税・撞木地区」及び、名古屋城 本丸御殿の視察		
学内教育活動 （その他）	生活科学1年次クラス担任、オフィシアワー 前期：火曜日12:30～14:00、後期：水曜日14:00～15:30、「居住環境特別演習」のゼミ生における卒業研究及び発表会の指導及び「2017年度都市計画ゼミ卒業研究（論文・設計）集」の作成・編集		
教育上の工夫	<p>第1部前期「まちづくり設計Ⅰ」（生活、昼、前期、1）</p> <p>今年度の「総合評価」は5.68であり、昨年度の総合評価5.63を若干上回っている。「事前説明」や「シラバス（ガイダンス）」の項目以外では、「板書・話し方」と「知的刺激」の評価が、ともに5.84（昨年度、ともに5.50）と高い。次に「レポート等の返却」の評価項目が5.80（昨年度評価無し）と高く、「教員の熱意」が5.79（昨年度5.44）と高い。設計を指導する授業のため、エスキーズを行ないながら進めたことや講習会を行いながら進めたことから評価が高いと思われる。次いで「わかりやすさ」5.74（昨年度5.63）、「学生の質問や意見」5.74（昨年度5.25）、「教材」5.68（昨年度5.56）の評価項目が高くなっている。項目別にみても全て昨年度より評価が上がっている。今年度の履修申告者は28名と昨年度の21名を上回っていたが高評価となった。4年目となり授業内容が学生に定着してきたのかもしれない。今後も学生一人ひとりと接する機会を増やし、個別的な指導を心掛けていきたい。しかしながら、当授業は1単位1時限であることから、履修申告者がこれ以上増えてきた場合は、時間コマ数を増やすなどを今後の検討課題としたい。</p>		
	<p>第1部前期「住環境計画」（生活、昼、前期、2）</p> <p>今年度の「総合評価」は4.78であり、昨年度の総合評価4.91より若干下がった状況となっている。「事前説明」や「シラバス（ガイダンス）」の項目以外では、「レポート等の返却」の評価項目が5.53（昨年度5.29）と高い。次いで、「教材」4.90（昨年度5.04）、「教員の熱意」4.88（昨年度5.02）、「学生の質問や意見」4.85（昨年度5.04）、「板書・話し方」4.83（昨年度4.95）、「わかりやすさ」「良好な学習環境」が共に4.78（昨年度4.86、4.93）と続いている。項目別にみると「事前説明」や「シラバス（ガイダンス）」の項目以外では、昨年度を下回っているものが多いが、一方で事前説明等は十分に理解されたようである。講義に関しては、図表を中心としたパワーポイント等の視覚的教材を積極的に使用するとともに、毎回の講義後に簡単なキーワード試験を取り入れ、興味を持てるような工夫をしている。授業評価アンケートのコメントを見ると今年度の学生は授業を聞いているだけでなく、自ら手を動かすことを期待しているようである。来年度以降は、学生からの意見が多い、授業中に学生の興味を引くような、穴抜きの資料配布やグループワークなども検討してみたい。</p>		
	<p>第1部前期「地域政策論」（食・生活・法Ⅰ、昼、前期、2）</p> <p>今年度の「総合評価」は5.40であり、昨年度の総合評価5.37を若干上回った。「事前説明」や「シラバス（ガイダンス）」の項目以外では、「レポート等の返却」の評価項目が5.70（昨年度5.79）と高い。次いで、「教材」の評価項目が5.60（昨年度5.35）、「板書・話し方」が5.58（昨年度5.30）、「教員の熱意」が5.54（昨年度5.28）、「学生の質問や意見」が5.43（昨年度5.25）、「わかりやすさ」が5.42（昨年度4.96）と高くなっている。また、「良好な学習環境」の評価が5.11（昨年度5.04）という結果となった。今年度の履修申告者は111名と昨年度の74名から、ファンタジスタ資格関連科目指定から大幅に多くなったが、項目別にみても全体の評価は上がっている。今後も、図表を中心としたパワーポイント等の視覚的教材を積極的に使用するとともに、毎回の講義後に簡単なキーワード試験を取り入れ、興味を持てるような工夫をしていきたい。</p>		
	<p>第2部前期「地域政策論」（法Ⅱ、夜、前期、2）</p> <p>今年度の「総合評価」は4.95であり、昨年度の総合評価5.33を下回った。「事前説明」や「シラバス（ガイダンス）」の項目以外では、「レポート等の返却」の評価項目が5.50（5.14）、次いで、「教材」5.10（昨年度5.30）、「教員の熱意」が5.03（昨年度5.20）と高い。「学生の質問や意見」が4.92（昨年度5.50）、「板書・話し方」が4.90（昨年度5.23）、「わかりやすさ」が4.83（昨年度5.07）となっている。一方、「知的刺激」の評価が4.66（昨年度5.30）と低い。今年度の履修申告者は75名と昨年度の43名から、ファンタジスタ資格関連科目指定から大幅に多くなり、あまり興味のない学生が受講したためかと考えられる。しかしながら、同じ科目を昼間部で開講しており、履修申告者111名と多いがその総合評価は5.40と高い。本講義内容は夜間部の学生には少し難しいのかもしれない。今後、図表を中心としたパワーポイント等の視覚的教材を積極的に使用するとともに、毎回の講義後に簡単なキーワード試験を取り入れ、興味を持てるような工夫をしていきたいが、夜間部の学生に対応した講義を検討する必要があるかもしれない。</p>		

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2017年度）

<p>第1部後期「まちづくり設計Ⅱ」（生活、昼、後期、1）</p> <p>昨年度に比べ各項目の評価が高くなっているものもあるが、「総合評価」は5.73であり昨年度の総合評価5.92より低い値となっている。「事前説明」や「シラバス（ガイダンス）」の項目以外では、「レポート等の返却」の評価項目が5.89（昨年度6.00）と高く、設計を指導する授業のため、エスキースを行ないながら進めたこと、中間提出や最終提出の講習会を丁寧に行ったことから評価が高いと考えられる。次いで「板書・話し方」「教材」の評価項目が共に5.73（昨年度5.54、5.69）、「わかりやすさ」「学生の意見や質問」「教員の熱意」が共に5.67（昨年度5.62、5.62、5.92）、「学生の興味を引く工夫」「知的刺激」が共に5.60（昨年度5.46、5.85）と評価項目が高くなっている。「良好な学習環境の評価」が5.47（昨年度5.46）と若干低いのは、グループ作業による設計を行っており、グループ内で活発な議論が行われたことから、他グループの声などが聞こえるためと思われる。昨年度より評価が高い項目も多いが総合評価は低くなっていることから、低くなった項目に注意しながら来年度の講義に臨みたい。また、今年度の受講生は15名（昨年14名）と少ないことから、一人当たりにかける時間が増えた。今後も学生一人ひとりと接する機会を増やし個別的な指導を心掛けていきたいが、受講者数の確保も課題としたい。</p>	
<p>第1部後期「地域環境学」（生活、昼、後期、2）</p> <p>昨年度とほぼ同じような評価となっているが、「総合評価」は5.43であり昨年度の総合評価5.50より若干低くなっている。「事前説明」や「シラバス（ガイダンス）」の項目以外では、「レポート等の返却」の評価項目が5.70（昨年度5.70）と高い。これは中間試験の採点を返却したことと思われる。次いで、「板書・話し方」の評価項目が5.53（昨年度5.49）、「教材」「学生の質問や意見」が共に5.50（昨年度共に5.56、）、「わかりやすさ」「教員の熱意」が共に5.47（昨年度5.88、5.60）と高い。一方、「知的刺激」の評価が5.23（昨年度5.30）、「良好な学習環境」が5.20（昨年度5.49）とやや低い。良好な学習環境に関しては、今年度は私語をする学生がおり、何度か注意した結果かもしれない。また、昨年度より高い評価項目は、今年度は小教室に53名と昨年度69名に比べ少ない学生が受講しており、全体的に分かりやすく易しい授業を心掛けていることからかもしれない。パワーポイントやDVD等の視覚的教材を積極的に使用するとともに、毎回の講義後に簡単なキーワード試験を取り入れて興味を持てるような工夫をしているが、最新の情報などを取り入れ、知的興味を持てるようにしたい。</p>	
<p>第1部後期「都市計画論」（生活、法Ⅰ、昼、後期、2）</p> <p>昨年度に比べ全体的に評価が低くなっており、「総合評価」は4.83であり昨年度の総合評価5.55より低くなった。「事前説明」や「シラバス（ガイダンス）」の項目以外では、「レポート等の返却」の評価項目が5.57（昨年度5.84）と高い。これは中間試験の採点を返却したことと思われる。次いで、「学生の質問や意見」の評価項目が5.05（昨年度5.61）、「教材」が5.00（昨年度5.58）、「わかりやすさ」4.93（昨年度5.55）、「板書・話し方」「教員の熱意」が4.88（昨年度5.58、5.65）、「学生の興味を引く工夫」4.80（昨年度5.55）、「良好な学習環境」4.73（昨年度5.59）となっている。良好な学習環境が低くなっているのは、今年度は私語をする学生がおり、何度か注意した結果かもしれない。一方、「知的刺激」の評価が4.51（昨年度5.52）と低い。昨年度より全体的に低い評価は、履修学生が昨年度40名から、57名と増えたことも原因と考えられる。今後は、新しい情報を加えるとともにわかりやすさに努め、パワーポイント等の視覚的教材を積極的に使用するとともに、毎回の講義後に簡単なキーワード試験を取り入れて興味を持てるような工夫をしたい。加えて、授業中に学生の興味を引くような、穴抜き資料配布やグループワークなども検討してみたい。</p>	
<p>第1部通年「居住環境特別演習」（生活科学科：通年）</p> <p>都市計画ゼミのねらいは、まちづくり及び都市計画に関するテーマについてグループ等で研究を行い、研究過程で調査、課題抽出、解決方法、考察等の検討、研究報告のとりまとめ、表現の方法等を体系的に学び、最終的にまちづくり及び都市計画について理解を深め考察することを狙いとしている。調査や視察等を通じ机上では得られない社会的な課題を実感し、これに対する自らの考えをまとめ、発表、プレゼンテーションでできることが大切であると考えている。授業計画としては、まちづくり及び都市計画さらには地域の公共施設等の今日的な課題等を題材に研究テーマを決め、資料調査及び現地調査等に基づく分析による結果を導き、各自の考察を行い、卒業研究論文または卒業研究設計として取りまとめることとしている。前期は輪講を行いながら各自研究テーマを決め、夏休みに調査を行い、後期から卒業研究報告を取りまとめ、卒業研究（卒業論文・卒業設計）発表会にて各自発表を行っている。ゼミ生のまちや都市への興味の一環として、一身田寺内町、津城及び大門商店街、及び、歴史的・文化的遺産が遺されている、名古屋市中区並み保存地区「白壁・主税・撞木地区」及び、名古屋城 本丸御殿の視察を行った。</p>	
<p>第1部前期「生活科学概論」（基礎・昼・前期・2）1コマ</p> <p>生活科学科の各教員が自身の専門分野について講義を行うオムニバス形式となっており、その内一講義を担当している。食物栄養学専攻、生活福祉・心理コース、居住環境コースの学生全員に興味を持ってもらうため、「住民参加とコミュニティ」というソフトなテーマで講義を行っている。パワーポイント等の視覚的教材を積極的に使用し、最後に感想や意見等をA5版用紙に記載させるなど、興味を持てるような工夫をしている。</p>	
<h3>III 学会等及び社会における主な活動</h3>	
<p>1 所属学会：一般社団法人日本建築学会、公益社団法人日本都市計画学会</p>	
<p>2 社会活動実績</p>	
地域連携事業	<p>2017年 三重短期大学オープンカレッジ「都市計画とまちづくり」～持続可能なコンパクトシティに向けて～ 講演</p> <p>地域連携委員会委員として、株式会社三重銀総研共同主催の2017年小論文・作品コンクールの厳正なる選考を行い、表彰式に出席し講評を述べた。</p>
学外審議会委員等	<p>一般社団法人建築学会 都市計画委員会 地方都市再生手法小委員会委員（2015.4～）、一般社団法人建築学会 東海支部 三重支所運営委員（2015.8～）、一般社団法人建築学会 東海支部 都市計画委員会委員（2016.4～）、一般社団法人建築学会 東海支部 都市計画委員会 講演会実行部会員（2017.4～）、三重県事業認定審議会委員（都市計画）（2015～）、津市建築審査会委員（都市計画）（2014～）、津市農業振興対策協議会委員長（2014～）、津市福祉有償運送運営協議会委員長（2014～）、四日市市開発審議会委員（2016～）</p>
学外講演会講師等	<p>2017.11.10三重短期大学出前講座・「駅前再生ラポ」主催 まちづくり講座『都市計画とまちづくり』～持続可能なコンパクトシティに向けて～ 最近の駅前等開発事例 講演</p>
その他の社会活動	
他大学非常勤講師	
<p>3 一言アピール</p> <p>地方都市における持続可能な集約型都市構造の検討、広域都市計画、都市農村計画、住民参加のまちづくり、都市再生手法、人口減少時代の都市計画など、今後の都市計画の課題に取り組んでいきたいと考えています。 （研究テーマの応用例：持続可能なコンパクトシティ、広域都市計画の検討、都市農村計画の検討、老化した公共住宅団地等の建替え検討、住民参加のまちづくり）</p>	

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2017年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻		職名：准教授	氏名：駒田 亜衣
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：特定健診・特定保健指導に関する研究 県民健康・栄養調査の評価に関する研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	駒田亜衣、中井晴美、飯田津喜美、山田真司「内臓脂肪蓄積と生活習慣の関連について」日本ヒューマンケア科学学会、Vol.10、No.1pp11-21(2017)		
その他			
学会等報告	西川舞、水谷加奈子、豊永重詞、鈴木まき、駒田亜衣、高血圧傾向にある人の意識と行動に関する検討、三重県公衆衛生学会(2017.1)		
	西川舞、駒田亜衣他、高血圧傾向にある人の意識と行動に関する検討、三重県栄養士会報告(2017.3)		
共同研究	(テーマ:特定健康診査・特定保健指導の解析) 駒田亜衣(研究代表者)、木下なつこ、山中瞳、山田真司		
助成研究	2017年度地域問題研究所研究員「三重県の栄養調査結果から探る健康づくり対策について」		
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：調理学(食栄、昼、前期、2)、調理学実習Ⅱ(食栄、昼、後期、1)、給食計画実務論(食栄、昼、後期、2)、校外実習事前事後指導(食栄、昼、通年、1)、給食計画実務論実習Ⅰ(食栄、昼、前期、1)、給食計画実務論実習Ⅱ(食栄、昼、通年、1)、特別演習(食栄、昼、通年、4)			
2 教育活動実績			
課外活動指導	茶道部顧問		
学内教育活動(その他)	クラス担任(食栄1年生、食栄2年生)、食栄学生就職指導(食栄2年生)、食栄学生編入学指導(食栄2年生)		
教育上の工夫	「調理学」では、食品や使用する器具の写真を出来る限りスライド等で示し、理解しやすいように工夫している。また、「調理学実習Ⅰ」を担当いただいている非常勤講師とも連携をとり、実習と講義がリンクするように調整している。		
	「調理学実習Ⅱ」では、前期の同実習Ⅰからの応用となるように、段階を考えたスケジュールにしている。また、献立作成の機会を設け、実際に自分の献立を取り入れて調理できるよう工夫している。		
	「給食計画実務論」では、大量調理や校外実習に必要な知識を身につけることを目的としている。献立作成に加え、発注や原価分析などの練習も取り入れるようにしている。		
	「給食計画実務論実習Ⅰ」では、同講義をもとに大量調理を実践し、栄養士業務の主となる給食の運営を学ぶことを目的としている。献立作成、発注、検収、衛生管理、帳票類の作成など、実習を通して給食運営の一連の流れを把握できるよう工夫している。		
	「特別演習」では、公衆栄養学的内容で実施した。子どもの身体状況と食事摂取状況との関連の解析や、特定健診結果の解析、三重県の食の状況調査解析などを行い、将来的に栄養士として働くうえで知っておくべき内容を研究テーマとした。データのとめ方や集計手法など、パソコン操作についても積極的に指導を行った		
	「校外実習事前事後指導」では、栄養士実習に必要な知識やマナー、課題研究に積極的に取り組めるよう指導を行った。特に、実習先ごとに重点的に準備すべき内容が異なるため、できる限り個別に対応した。		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本栄養士会、日本栄養改善学会、日本栄養・食糧学会、日本病態栄養学会、日本公衆衛生学会、日本ヒューマンケア科学学会、日本家政学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	「地域連携連携カフェHONOBUONO」の運営(献立計画・給食運営)		
	「世界の料理講座(調理実習)」の開催 津市国際交流協会		
学外審議会委員等	津市栄養士連絡会委員、津地域栄養管理ネットワーク研究会委員		
学外講演会講師等	みえの食フォーラムについてフォーラム講演「三重県の食状況について」(2017年11月24日) 津市ヘルスマイトリーダー研修会講師(津市食生活改善推進協議会)「おいしく食べる工夫」(2017年9月) トーク21第17回松阪地区保護者と教職員の語る会講演「三重県の食状況と課題について」(2017年10月)		
その他の社会活動	出前講座「三重県の食について」2017年12月 ZTV「おしえて先生」出演「子どもの肥満について」2017年10月		
他大学非常勤講師			

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2017年度）

### 3 一言アピール

食習慣や生活スタイルは地域ごとに特徴があり、それらを客観的に明らかにすることによって、その土地や環境に合った健康増進や生活習慣予防の方策が立てられます。有効な方策を見出すため、特定健康診査(メタボ健診)や県民健康栄養調査の結果をいろいろな観点から探り、性別、年代、地域だけでなく、普段の生活習慣による違いなど、健康増進に役立つ知見を得ることを目的に研究を進めています。

（研究テーマの応用例：有効な特定保健指導に関する研究、栄養摂取量と生活習慣との関連に関する研究、地域における食生活の問題点と課題）

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2017年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：准教授	氏名：笠 浩一朗
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：自然言語処理、コーパス言語学			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告	「同時通訳における語の欠落に関する定量的分析」, 蔡 仲熙, 笠浩一朗, 松原茂樹, 日本通訳翻訳学会年次大会2017年9月		
共同研究	科研費 基盤研究 (C) 「同時通訳の訳出方略の分析のための柔軟な対訳対応付け手法の開発」 (代表者) (課題番号: 17K02765)		
助成研究	科研費 若手研究 (B) 「多角的な観点に基づく同時通訳者の通訳プロセスの定量的な分析」 (代表者) (課題番号: 25770146) 科研費 基盤研究 (B) 通訳方略の体系化と文構造の逐次解析に基づく講演音声の同時通訳 (分担者)		
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目: 情報処理実習 I (共通・夜前期・昼2クラス後期・1)、数理科学 (基礎・昼前期・2)、情報と社会 (共通: 昼前期・夜後期・2)、情報と科学 (共通: 昼後期・2)、居住環境特別演習 (生活、昼、通年、4)			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)	クラス担任 (居住環境コース)、4年制への編入を目指す学生への数学、物理等の個別指導。		
教育上の工夫	<p>情報処理実習 I (共通・夜前期・昼2クラス後期・1) 実習は、スライドで説明をしながら進めるが、学生のPC活用力のレベル差が大きいため、進度が早い学生や遅い学生は各自が教科書を参考にすることで、自分に適したスピードで進められるように配慮した。今後の改善方法としては、学生とのコミュニケーションを密にして、より学生の声を授業に反映させることが必要であり、今後積極的に取り組みたいと考えている。</p> <p>数理科学 (基礎・昼前期・2) 学生間において知識、及び、理解力に差があり、すべての学生に対して適した講義内容、講義レベルを合わせることは困難なので、講義では比較的的理解しやすい内容を説明し、より深い内容を知りたい学生、及び、講義内で理解できなかった学生に対しては講義時間外の個別指導で対応するようにした。</p> <p>情報と社会 (共通: 昼前期・夜後期・2) 配布する資料をカラーで作成・印刷することで、資料を見やすくした。講義中盤の自然言語処理に関する内容、及び、講義後半の情報システムに関する内容については、少し理解できていない学生が多いようなので、具体的な事例を紹介することで、理解しやすい内容になるように工夫した。</p> <p>情報と科学 (共通: 昼後期・2) 受講生の人数が多いため、講義内で理解度を試す小テストやプログラミングの実習などにおいて、細かい指導ができないため、講義での全体説明をよりわかりやすくなるように努めた。</p> <p>居住環境特別演習 (生活、昼、通年、4) 演習では、学生の興味がある情報処理を活用した研究 (プロジェクト) に取り組んでおり、2017年度は三重短期大学のLINEスタンプ制作、ゼミのHPの制作、Twitterから映画の感想情報の自動抽出、子供向けのプログラミング講座の開催などを行った。</p>		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会: 電子情報通信学会、言語処理学会、情報処理学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	小中学生向けのプログラミング講座の開催 (2018年1月)		
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動	Little Coder Mie (市民団体主催の子供向けプログラミング講座) のボランティア参加 (2017年11月)		
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
<p>プロの同時通訳者の訳出メカニズムの解明のため、大規模に収集した同時通訳者の音声言語データを、統計的な手法で解析しています。</p> <p>また、津市民及び三重県民への地域貢献への取り組みとして、子供向けのプログラミング講座を定期的に開催していく予定です。(2017年度第1回開催)</p>			

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2017年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻		職名：助教	氏名：飯田 津喜美
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：タンパク質の構造・機能に関する研究，ササゲ属マメに関する研究，食文化に関する研究			
2 研究活動実績			
著書	共著「伝え継ぐ日本の家庭料理 3 すし ちらしずし・巻きずし・押しずしなど」（全16冊），企画・編集（一社）日本調理科学会，農山漁村文化協会，2017年12月		
論文			
その他	小野はるみ，飯田津喜美，若杉悠佑：「弓道連盟ジュニア選手の食生活を振り返る－食生活調査結果と食育の実践から」，スポーツ医・科学研究MIE第25巻，2018		
学会等報告	飯田津喜美，武田春奈：「スチームコンベクションオープンを用いたシロミトリ豆料理の提案」，日本調理科学会東海北陸支部研究発表会，2017年7月，名古屋市		
	鷺見裕子，阿部稚里，飯田津喜美，磯部由香，乾陽子，萩原範子，奥野元子，久保さつき，小長谷紀子，駒田聡子，成田美代，平島円，水谷令子：日本調理科学会平成29年度大会特別企画「次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理－おやつの特徴－」．2017年8月，東京都文京区		
共同研究	蛋白質を用いたドラッグ・デリバリー・システムに関する研究（蛋白質の構造・機能解析）		
助成研究	ササゲ属マメの国内外での利用圏と調理科学的利用法の検討		
	一般社団法人日本調理科学会 特別研究『次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理』三重県研究調査員		
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：臨床栄養学実習（食栄，昼，前期，1），給食計画実務論実習Ⅰ（食栄，昼，前期，1），校外実習事前事後指導（食栄，昼，前期，1），調理学実習Ⅲ（食栄，昼，後期，1），栄養教育論実習Ⅱ（食栄，昼，後期，1）校外実習事前事後指導（食栄，昼，後期，1）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	バレーボール部副顧問		
学内教育活動 (その他)	食栄1年次生クラス担任，食栄2年次生クラス担任（就活指導等），子ども料理体験教室学生食育サポーター育成・指導		
教育上の工夫	非該当		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本栄養士会，日本栄養改善学会，日本生化学会，日本調理科学会，日本蛋白質科学会，日本熱測定学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	出前講義「健康作りのための家庭料理を学ぼう～シニア世代 健康長寿の食生活について～」，津市中央公民館寿大学，2017年10月20日，津市		
	リーディング産業展2017出典，2017年10月27～28日，四日市市		
	子ども料理体験教室参加，2017年5月7日，8月6日，12月10日，津市		
	三重県慢性腎臓病対策 県民公開講座参加，2018年3月4日，津市		
	津産津消交流会（津市農林水産物利用促進協議会）つなぐみ弁当レシピプレゼンテーション，2018年3月11日，津市		
学外審議会委員等	三重県栄養士会理事，2015年5月～2017年5月（任期満了） 三重県体育協会スポーツ医・科学委員会委員，2010年6月～（現在）日本調理科学会東海北陸支部役員，2016年7月～2018年6月（任期満了）		
学外講演会講師等	研修会講師「専門職としての役割と倫理要綱」，三重県栄養士会生涯教育研修会，2017年8月26日，津市		
	スポーツ栄養指導教室講師（分担），三重県フェンシング連盟海星高校，2017年8月11日，10月21日，四日市市		
その他の社会活動	三重県学生バレーボール連盟監事		
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
<p>タンパク質は，その構造や機能を調べることにより様々な性質を知ることができます。現在，大阪府立大学との共同研究において，生体内輸送蛋白質であるリポカリン型プロスタグランジンD合成酵素（L-PGDS）を用いた新規ドラッグ・デリバリー・システム（DDS）の開発を目指し，本蛋白質の熱安定性と機能性について調査しています。</p> <p>また，三重県の伝統食材（シロミトリ豆他）を調査し，調理科学的分析を行いながら有効利用法を研究しています。あわせて将来に残したい家庭料理・行事食としての継承活動も行っています。</p>			



## 三重短期大学教員研究・教育業績（2017年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻		職名：助教	氏名：杉野 香江
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：ライフステージにおける生活習慣と骨量の関連について、ヒトパラインフルエンザウイルスⅡ型増殖抑制作用を示す成分について			
2 研究活動実績			
著書			
論文	Sakai-Sugino K, Uematsu J, Kamada M, Taniguchi H, Suzuki S, Yoshimi Y, Kihira S, Yamamoto H, Kawano M, Tsurudome M, O'Brien M, Itoh M, Komada H. Glycyrrhizin inhibits human parainfluenza virus type2 replication by the inhibition of genome RNA, mRNA and protein syntheses. Drug Discov Ther. 22; 11(5):246-252. 2017.11		
	岩本江菜, 杉野香江：運動習慣のある中高年女性におけるロコモティブシンドローム関連因子の検討. 三重短期大学生生活科学研究会紀要No. 66 2018. 3		
その他			
学会等報告	植松淳、杉野香江、山本秀孝 他 漢方薬によるヒトパラインフルエンザウイルス2型増殖阻害 第136年会日本薬学会 金沢 2018. 3		
	加藤尊、杉野香江、若杉悠佑 若年女性と中高年女性の食事と血管内皮機能 第64回日本栄養改善学会徳島 2017. 9		
共同研究 助成研究			
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：特別演習（食栄、昼、通年、4）、調理学実習Ⅰ（食栄、昼、前期、1）、生化学実験（食栄、昼、前期、1）食品学実験（食栄、昼、前期、1）、調理学実習Ⅱ（食栄、昼、後期、1）、食品衛生学実験（食栄、昼、後期、1）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	華道部顧問		
学内教育活動 (その他)	クラス担任（食栄1年生、食栄2年生）、オフィシアワー		
教育上の工夫	特別演習では、中高年女性を対象に、骨密度、筋肉量を含む身体測定、体力調査、栄養調査を実施し、身体機能と生活習慣との関連について検討した。各種測定手法の習得をはじめ、データの解析、論文の作成指導、プレゼン指導を通して、実社会で働く上で必要な専門知識と技術の習得に努めた。		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本栄養士会、日本栄養改善学会、日本栄養・食糧学会、日本骨粗鬆症学会、日本体力医学会、日本薬学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	骨の健康を守るために（出前講座） 津市ふれあい会館 2018. 2		
	自分に必要な栄養量を考える（出前講座） 県立久居高校 2018. 2		
	513ペーカリーと三重短大によるコラボパンの開発 通年		
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
骨や筋肉をはじめとする身体機能の維持は、生涯健康な生活をおくる上で重要です。身体機能の維持に関連する食習慣、生活習慣について、調査、検討しています。			

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2017年度）

所属：1 生活科学科食物栄養学専攻	職名：助教	氏名：相川 悠貴（2017年10月採用）
<b>I 研究活動</b>		
1 研究課題：ラットを用いた運動と食餌制限の組み合わせが骨に及ぼす影響の検討、食欲をコントロールする方法、体組成が競技力に及ぼす影響超高齢者アスリートの生活習慣、糖代謝異常を予防する食品		
2 研究活動実績		
著書		
論文	相川悠貴, 木野村嘉則, 兼安真弓. 2型糖尿病モデルラットの糖代謝異常発現に対する田七人参摂取と運動の効果. 三重短期大学生活科学研究会紀要, 66: 1-7. 2018.	
その他		
学会等報告		
共同研究	筑波大学体育系運動栄養学研究室との共同研究	
助成研究		
<b>II 教育活動</b>		
1 担当科目 栄養学実験（食栄、昼、後期、1）、解剖生理学実験（食栄、昼、後期、1）、校外実習事前事後指導助手（食栄、昼、後期のみ、1）		
2 教育活動実績		
課外活動指導		
学内教育活動 (その他)		
教育上の工夫	実験が滞りなく進行するよう、講師の実施する実験をサポートした。	
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>		
1 所属学会：日本体力医学会、日本栄養改善学会、日本栄養・食糧学会		
2 社会活動実績		
地域連携事業	地域連携カフェ HONOBUNO 補助	
学外審議会委員等		
学外講演会講師等		
その他の社会活動		
他大学非常勤講師		
3 一言アピール		
非スポーツ競技者、スポーツ競技者の両方に対する、健康へ導く運動と食生活の良い組み合わせについて解明してきます。 (研究テーマの応用例：健康教室の実施)		